

I-7N91



印 田 宗 吉 氏 像

Yours cordially
Geo. W. Maphys M.
[Signature]

明治十一年二月

焚費成

化育

正五位松本順



婦女性理一代鑑序

女教ノ重ンスヘキ東洋諸國夙ニ其說アリト雖モ其主旨專ラ男子ノ後ニ從フニ在リテ所謂順ヲ以テ正トナスノ一點ニ外ナラス女子ニシテ男子ニ並立シ相協ヒ相輔ケテ各其天賦ヲ完フスルノ道ニ至リテハ深ク之ヲ講究スルヲナク其弊竟ニ女子ヲ視ルヲ玩物家畜ノ但ニ世ノ需用ト玩弄ニ供スルモノノ如クナルニ至レリ是人文未タ世ニ明カナラサルヨリ爾ルモノトイヘトモ女子モ亦自棄コレ甘シカ、ル陋習ニ安スルニ坐スルモノ尠ナカラス抑女子タルモノハ妻トシテハ其夫ト共ニ家事ニ任シ母トシテハ其子ヲ教ヘオチ長シ器

ヲ成サシム其職トスル所最輕カラサレハ須ク自カラ
身ヲ立道ヲ行ヒ女子ノ女子タル其分ヲ盡スヲ志ス
ヘシ米國那晋平斯氏著ス所ノ婦女性理一代鑑ハ女子
ノ知識ヲ廣ルニ於テ最簡要ノ書タリ誠太郎堀君此ニ
見ルアリテ譯メ世ニ問フ其二編成ヲ告クルニ方リ子
ニ屬スルニ序ヲ以テス此書ノ行ハル、其女子ニ益ア
ルハ固ヨリ論ヲ嫉ス男子ト雖トモ亦大ニ得ル所アル
ベシ仍テ其首ニ題スルカクノ如シト云フ

明治十一年六月中旬

森 有 禮

余嚮に此書之初編即ち處女の篇を譯述して世に公けにせしに紳士貴
女子の信託を得ると余が想望に過ぎ未だ幾月からせして最初發行の
部數ハ江湖の要求に應じるに足らざるに至れり今又第二編即ち妻女
の篇を譯して發行せんとす抑此書の婦人子に必要欠くべからざるハ
前編に陳述するが如くに茲に贅せせと雖も實に陸軍軍醫總監松本順
先生の所謂化育と賛成とるの良書たるハ既に前編を讀味せる諸子の
詳知あるべし之を讀し數婦人の言を聽くに妾等處女の始めに於て此
書を得ばこの身の幸福幾多廣大あるべし今これと熟讀するに及んで
悔悟すると擧て數ふべからせと○余前編の初めに米國陸軍軍醫總監
と初め歐米諸大家の此書を賞讃せる數多の證狀中より其二三を抄譯
せり今又他の著名ある醫學士及び道德學士が此書の真理に適すると
一自から任責せる證狀中の一ニを左に譯出して讀者に此書の尋常無益

二の書と異なる所以としらしめ倍江湖の信憑と固ふせんと冀望を

明治十一年六月

堀 誠 太郎 識

原書の序

先づ此書の性質と目的とを説明する爲に二三言を開陳するに不當に
あらざるべし抑此書の目的は新説大胆にして恐らくは世人の批評を
免るゝとあはるべしと思ふが故に著述者の前以て辨明をせんとあり
○ 過る二三年間に術學士の研究を以て婦人の性理婦人の病及び此病
を豫防する適當の方法に關して數多の事實を發見せり如此き教示を
普く世人の了解するに至らば其效驗は各人及び社會一般の鴻益とあ
ると照明あり偏に困難とする所の未だ嘗て世間平常の交際に於て親
しく發論せられざる條項を判然明瞭に陳述して人心に適ふ様に爲そ
と是かり然りと雖も醫師たる者の日々如此き事件を有體に適當ある
言語を以て話とどの其職とする所あるが故に著述者の右の困難に打
三 勝つと成し難きにあらざと感覺せり○斯にその數少しと雖も世間上

四 等社會に列る人男女の各性一偏に關する事の世望に適する醫學教諭の條項に非ざると主張するの著述者能くこれと悟れり著述者にこの種の人の言ふ所と正當ありとして千思萬考それども如此き考説の本來謬誤あると確信する人の母なるもの偏に宗教と信して學識あきとさのみ信者と云ふのまにして潔白純良の母親にあらざ上に陳述せる事件と識了せんが爲めに醫學と學び且つ之と現行する男女の拙劣の人にあらざして却て善良の人あり又社會一統に於ても等しく異なることをし故に若し世人の各男女兩性の關係と正確に理解するに至らば最も罪惡と繁殖する一の原因と除き去るに至るべし○著述者の此書と編纂するに付ての憑據せし所の有權の書録あるが故に簡短ある付録と加へ殊更に醫術と業とせる讀者の此考に供て而して此の性質の確實ある教示と民間に擴張せんとする著述者の企に於て我同業ある醫學

者の惠助と仰ぐんと欲す抑醫學者に非ざるよりの何人か斯る教示の
缺乏よりして如何に悲歎すべき成果の不斷に生ぜると了知せざらん

米利蘭土州ホルチモ―華聖東大學醫學部の産科教師醫學博士ハ

―ブエー、エル、バイヤード氏よりの證狀

余貴君の著述せる婦女性理一代鑑と熟讀して太ゞ感服せり即ち此書と著せしめ我國の婦女子に益せんと欲してあり余の最も熱心して之と我國の婦女子に奨讃するに於て豈躊躇をばけんや余貴君が斯く論じ難き條件と巧みに説論せしと讚歎を而して此國に久しく要求せる所の缺乏に充るものとして余のこれと世間に勸奨せんと欲を抑此書中に説く所の盡く眞理に適ふの要言あり婦女子たる者其身固有の天性と天賦の義務とを親しく了知するとより尙適當必要あるもの之れある可けん乎

ハ―ブエー、エル、バイヤード

醫學博士ナフエース君

ゼニア、醫學學校の現術醫學教師醫學博士エツチ、エン、イーストマン氏

よりの證狀

余貴君の贈れる婦女性理一代鑑と正に熟讀し卒れり余の此書と指して絶妙ある著述にして方今殊更に要用ある書ありと明言すると遅疑せざ此書たるや眞實、高調、勇壯の體裁にして盡く婦人子の繁榮と幸福とに欠くべからざる教諭あり依て我國中の成女及び妻母たる者各其手裡に置かざんばあるべからん

エツチ、エン、イーストマン

醫學博士ナフエース君

ゴストン府の著名ある傳教牧師ダブルユー、エツチ、エツチ、モルノ―法師

よりの證狀

八 婦女性理一代鑒と題せる著書に余が証狀を付するの著述者に對し余が感謝の誠心と表するが爲あり斯る著述を要すると何國何時代か今日我米國より尚切あることあらむ此國及び世界中の妻母するもの各此書の一部を所有するに至るまで普く江湖に之を紹介すると以て余が責任とすると悦ばざらんや著述者の實に此書中に於て必要の教諭と忠告との擧て示さざるのあし正しく著述者の功勞の基督宗の諸人及び人間社會のためと計る人々の歡謝に當るに足れり

マブルエー、ニッサ、ニッサ、モルノ

醫學博士ナフターセ君

第二編目次

妻女たるの生涯

- 第一章 婚姻の當夜
- 第二章 夫婦同室に卧し及びに同衾するの可非
- 第三章 寢臺の如何ある種類を以て最も健康に適ふや
- 第四章 色情の徳及びに正當なる事
- 第五章 色情の放肆と抑制とに付て論ぜ
- 第六章 情交と爲らざらざる時宜
- 第七章 情交に苦痛あるときの情態
- 第八章 不妊の事
- 第九章 子女と設つことと請願ふ妻女に對しての示諭
- 第十章 子女の數を制限する説

- 第十一章
- 第十二章
- 第十三章
- 第十四章
- 第十五章
- 第十六章
- 第十七章
- 第十八章
- 第十九章
- 第二十章
- 第二十一章
- 第二十二章

墮胎の罪惡

孕胎の理

情交の實と結びさる徴候

良人の愛情と保存に如何して可き臣

遺傳の總論

美麗の遺傳

頸及び四肢の遺傳

色澤の遺傳

兩親の各より遺傳たる性理の質

毛髮の遺傳

氣質の遺傳

多子の遺傳

第廿三章

長壽の遺傳

第廿四章

不具の遺傳

第廿五章

各人特癖の遺傳

第廿六章

美兒と得るの法

第廿七章

才智の遺傳

第廿八章

女兒の身に現はるる父親の感勢男兒の身に現はるる母親の感勢

第廿九章

遺傳の性質と左右する教育の感勢

第三十章

病癩の遺傳

第三十一章

疵傷又の病疾の爲めに出來る不具の遺傳とる

第三十二章

後日に於て現はるる遺傳の成果

- 第三十三章 如何して遺傳の癖と避くべき乎
- 第三十四章 何故に婦人の數の男子に比ぶれば過多ある乎
- 第三十五章 男女の性の隨意に造り得らるる乎
- 第三十六章 双子産
- 第三十七章 双子の産るゝ原因の胡爲ものぞ
- 第三十八章 親族の大小に双子産の感勢
- 第三十九章 一産に二人以上の兒子と産む事
- 第四十章 一産に三子と産む事
- 第四十一章 一産に四子と産む事
- 第四十二章 一産に五子と産む事
- 第四十三章 信用爲し難き數子の産
- 妊娠

- 第四十四章 妊娠女と尊み敬ふべき説
- 第四十五章 妊娠の候徴及びに症状
- 第四十六章 流産
- 第四十七章 母親の痕跡
- 第四十八章 胎内に於て兒子の教育
- 第四十九章 或る婦人の妊娠中重ねて孕むと能る乎
- 第五十章 右の問題に付て道德上の關係
- 第五十一章 子女の母親の胎内にて啼くと能ふ乎
- 第五十二章 胎兒の男女と知るの説
- 第五十三章 胎内に双兒の在るや否やと知るの説
- 第五十四章 懐胎の時間
- 第五十五章 長延ある妊娠の原因

第五十六章

如何して勞力の時期と算ふべきヤ

第五十七章

妊娠中の攝生法

食物 衣服 運動 沐浴

空氣の流通 睡眠 精神

第五十八章

妊娠中夫婦の接近

第五十九章

健康上に妊娠の効驗

産后

第六十章

分娩の預備

第六十一章

分娩の近よる徴候

第六十二章

現實の勞力の症狀

第六十三章

勞力の原因

第六十四章

勞力中の注意

第六十五章

看護人への示諭

第六十六章

産母への注意

第六十七章

産兒への注意

第六十八章

分娩後母親への注意

第六十九章

苦痛と見るとおしに分娩と爲その法

第七十章

産床の死亡

第七十一章

産兒の重量及びその身長

第七十二章

勞力の時間

第七十三章

死産

第七十四章

産後の不攝生

第七十五章

分娩後體の形ちと守る事

婦女性理一代鑑

米國 ナフェー六氏原著
日本 堀 誠太郎譯述



妻たるの生涯

婚姻の當夜

余の生涯の第二段落に論じ及ばんとす既に婚姻と結び了れ
る處に忽ち變りて他人の妻女とあり一の新しき世界に生れ出
て人倫の新しき契縁と結ぶ此契結ぶるや最も慕はしきものにして且
婦人の身に能はざる處の自然に合ひざるものあり○夫れ結婚の大眼目
の人の生命と遺傳るものにして即ち斷えざ死亡する處と補ひ以て人
種と永續する爲めに必要欠くべからざるの義務なり人間この高尚義
務と盡すに於いて婦人の爲るところの最も振出たる部分あり如何と

二 されば婦人の後來の各種の泉源並びに蓄藏處をればあり是故に婦人の已れが地位の性質と責任とに付て全く曉知らざることをあかるべしといふに敢て無益の誠にあらざるべし扱この不知といふ言辭は即ち艱難疾病時としての天壽と認るに至るの意味あり然れば則ち人事の甚だ重要あるとの中に就て此事に關るもの術學に問ひ質させんばあらず○婦人始て婚姻すれば其充分の結菓とせる人母とあるがとく自づから多少の苦みと見るものあり此新生涯の初歩と期て發る處の苦痛と避け且減少せんが爲めに爲すべきと多し即ちこの目的と達するに婚姻の時日と撰定ことに注意せんばあらず余前編に於て婚姻と成就するに適するの時日の月經再發の凡そ中間と撰ぶべきとと説けりこの時日の孕胎ことなき期あるが故に母および子女の爲めに甚だ良とそ夫婦始めの間の情交の不妊期と撰ぶべしといふ理由の新

にさせる婚姻の情交よりして妻女の身に發る悒勞の懷妊するに當りて發る身體の動亂の始まる前に鎮癒ことと欲するが爲めあり若し斯の如く深重ある變化二あがら相踵て過急に發るとき其身堪がたかるべし故に月經後凡そ十日目と以て婚姻と行ふに適當せる時日とそ○時としての婚姻と成就し難きことあり此故障と取除ことに於て常に用心工夫及び耐忍こと肝要あり必性急粗暴あるがとき處置とあそべから老偏に恐るべきの堪忍なき性急より生る處のものあり優しき手段と以て凌ぐに尙大ある抗抵と覺ゆるがとき稀ある場合に臨んで何事自然に反對することの在るや否と搜索せんばあらず然るときに暴行するの唯禍害と生るものにして危難なきにあらざるが故に醫術に依頼せんばあるべからず如何とされば斯のとき偶然のことに於ての醫術より外に其補助と與ふるものあければあり

四

○婦人最初の情交の通例少量の血汁と出たものあれども婦人毎に必
 然しも血汁と出たにあらざれば令出血をすることなきも聊念頭に懸るに
 さらば昔時の此出血と以て未通女の証とさせり猶太人亞羅比亞人其
 他諸國の人民の此血汁と注意して貯へ保ち以て新嫁女の真操を証據
 として他に誇示せり是れ笑ふべきの誤解あり出血のあるとあしとの
 等しく屑とせるに足らざ如何とあれは寡婦又の久矣夫婦に離居する
 妻女の屢同様の經驗を爲せばあり又婦人の性質のこの事に付て關係
 なきにあらざ水脈質にして色青白き白色人の彼局部弛緩するよりし
 て白帯に苦しむり或の生得虛弱あるもの其痛み少くして出血を
 こと少く又の至くなきとあり當て斯のとき患に罹らざる的にして
 其色黒人の之と異て出血をると多し如何許益用あると雖も新嫁女の
 浴湯し或の付薬する等のこの現に行ひ難きものあるが故に暴行して

五

傷損するをなかれ女子生涯の此大變化の頸部の腺の脹膨と嫩衝と發
 せことあり○夫婦の交誼の大抵最初の數周の間多少苦痛あり又總身
 の動亂及びに精神の不順あること是れより生ると多し此煩ひの新
 嫁女として身體の鎮靜と精神の平穩とと專一とせしむべきに却て新
 妻として急ぎ彼方此處に旅行をさしむるがとき愚昧ある慣習より
 増長するものと又此期に當て過度の淫欲と放肆にせるの種々の嫩
 衝病を生ずるの根元にして一時妊娠ことと妨げ及び不健康と引起せ
 るが故に夫婦始めて接近する後三日の間の夫婦として離別せしむる處
 の古代の風俗の新婦と休息しめ且其氣力を恢復せしむることに於て
 甚だ良き習慣とを斯のとくそれ何事も損失をすることなく却て大に
 益する處あるべし○然れども暫時にして都ての刺戟治りて總身にて
 も局部にても此大切なる義務を行ふとに於て毫も苦痛と覺めるとあ

六 かるべし當時苦痛のある病氣とあるの前徴するが故に余のこの事に付て後章に説明さんと欲そ

第二章 夫婦同室に臥し及びに同衾するの可否

人間生涯の三分の一の睡眠に過了するものありこの無神経にして休息するの時間の活動力と新鮮にあそがために甚だ必用あるものにして夫婦の健康のみならず其子女の健康も亦此事の適當管理に關ると多し寢室と異にし又同室にして寢臺と別にし或の同衾するに就て健康及びに歡樂の上に功ありといふことに付て從來記載せる書多しこの混雜する問題の一の規則を以て萬例に適ふ様に定むると難かるべし概して論ぜれば方今米國及び他の數國に於て流行する風俗(夫婦同衾と云ふ)と變んと欲することに於ての性理上においての毫末も益あることありと明言ことと得べし夫婦共に健康にして幾んど同じ年齢あり

七 此の廣潤ある閨房に同寢するも妨げあり却て此の事の嘉すべきところあり其故の一層親密なる交友と發すがために雙方の愛戀と開發し且之を維持するものあり○往昔ズールイッチに於ての争口易き夫婦ありて離縁のたと訴るとき官吏先づ夫婦の言んと欲する處を聽せして一室に閉籠ると三日且一個の寢臺一個の机及びに皿碗共に一個と與へ食物と與ふる時も夫婦と見るとかく且話説するると番人に禁止め而して後に之と糺そとさの彼等双方とも離縁のたと求めざるの平常のことありと云へり○前條に述べるとく某事情に因て夫婦同室に寢るの害あり夜間新鮮なる空氣の某分量の各人の要むるところにして一旦呼吸しする空氣の毒と含み睡眠の間肺臟と皮膚よりして斷えせ吐氣ものにして此吐發する空氣と復た吸込むの害あり一丈二尺四角の閨房の絶えせ空氣の交換に適ふがとく充分なる空氣扱と設く

八
るにあらざれば二人の閨房に狭し二人の寢室の少くも二千四百立方
尺の空氣と有たせんばあるべからず詳りに云へば一分時間に四十立
方尺の割合あり如何とされば一分時間に新鮮なる空氣の二十立方尺
の健康なる壯年の人に要する處ありと定められればありの極若年
人と極老年の人との必也同衾をべからず夫婦の年齢と以て論ぜるに
祖父と孫女とのとき差異あらば各々別室と守らせんべあらざり某病
疾の同衾するに因りて生るものあり肺病的の寢臺の他に傳染るに
勢力強き根元する人の能く知れるところあり伊太利亞に於ての肺
病にて死するものあれば死後その寢臺と毀失こと一般の俗なりとそ
二三年前に結節肺病の吐氣に因りて人間より畜類に傳染することあり
茲に登録する確實なる例數多あり即ち其両親も健全に其身も健康な
る年少女子にして肺病と患る男子に嫁入し日からせして同病に罹り

或例に於いて其夫婦に先づちて死せり此異常なる例の其病毒寢寐
の間において傳染すること明りあり故に夫婦の中孰れにても肺病と
患るときは同じ寢臺或は同室に終夜ふとこと甚だ不注意のことあ
りとぞ

第三章 寢臺の如何なる種類と以て最も健康に適ふや

鳥毛の褥の男女共に健康に補ひあらざ羊毛或は羊毛と馬毛とを混合
する臥褥の甚だ之れに勝れりとぞ總て臥褥の一年に一度宛解縮てそ
の中と空氣と日光とに乾燥と良とを夜間寢たる人の發氣と發汗とを
以て久しく満濕しする臥褥の健康に害あり又海綿と入れざる褥に臥
ることの子孫と繁殖さんと欲する人の補助とあるの往昔の著述家の
確言にして今世の名家の贊成するところあり故に近來用ふる歴着
九 なる海綿の臥褥の親族の繁殖と欲ふ夫婦に於て至極適當ものあり又

ロツン(摺の類)の枝葉と入て製たる臥褥も上に等しき功能ありと云ふ
 の能く人の知れる處あり〇尖圓子と結ぶ樹の香氣の婚姻の質と得る
 に感力ある人々能く之と知れり故に松林に居住する人の概して衆
 多の兒子と儲あり〇寢衾の過度に多あるの甚だ害あり且病中にあら
 ざれば寢室に暖爐と設くるの害ありと若し睡眠中甚だ温熱あると
 きに發汗と生じ又心臓の活動力と増し總身と倦憊せるものあるが故
 に此二者の安眠と妨げ身體の休養と障礙するものなり是故に虚弱ある
 妻女及び下血し易き婦人の臥衾の量に付て殊更に注意せんばあるべ
 うらむ

第四章 色情の徳及びに正當なる事

其名商き醫學著述者の色情の濃薄に付て女子と三等に分てり第一の
 世人一般に想像より多くして情感の薄く或の全くなき的あり第二の

女子の第一に比ぶれば其數衆しと雖も女子の全數に比較れば未だ小
 類あり此等級の女子の多少強盛ある情感と覺也第一の部類に属する女
 子の丁度盲人の物色と知らざるがとく他の女子の情感の濃薄と察と
 ること能はざ故に此輩の自己の思考において誤解こと多し第三の女
 子の強半とあせり此部類の女子の色情の總て他の欲情に於るがとく
 適當の度量あり〇女子にして色情あるのその品行と下落るといふの
 虚妄の説にして造化の理に反けり物性學に於ての最も明瞭に其徳と
 ること及び正當あるとと指示せり或妻女の夫婦の責任と避け難ひ或
 の之と念頭に懸げざるを以て誇顔あり是等の女子の自己の無情と官
 能の沈没とに付て不具あらざるがとく説せり抑陰部の不整又の之と
 同じく官能の損毀と以て造化の咎めを受けざる的にあらざれば妻女
 たる人の皆愛の税と受取り又之と支給べきことと命せられざるもの

あり格別に苦むとなくして此秘密ある法律の働さより退くことと満
 足する婦人の此一事に於て其身の形造充分からせして其身中の特別
 ある功用に缺く處あると現れそあり抑人間世界に男女共に分受ざる
 情欲のあらせ凡そ生殖の人間の義務にして人種保続の爲めに醸と
 ころの感念の各人その身の保護と誘導の感念と同じく適當なるもの
 あり男女反對しざる性の人の爲めに情と愛と唯一人のみと永久に愛
 戀するの人間の固有にして他の動物的と異なる證徴ありといふの實
 に名言あり人間に生殖の感念の如く愛戀の情と帶べり所計この
 情の彼感の蒸ばしさと補助之と永遠も保続するものあり○多くの
 物性學者の妊娠するに付て一の大切なる役と此感念に與へしのみ
 からせ若し婦人に發情をければ妊娠せざるべしと疑へり此極度の説
 の今世の術學の燈明の中に保ち難しといへども都て近來の名家も

妊娠の夫婦同時に愉快と覺ゆる時において一層確實ありといふに同
 意せり蓋妊娠の愉快の果實あり○この際に當て婦人の意念の胎兒の
 形造に大に關係と爲るといふの亦疑ひと容るべからせ如何とされば
 胎兒の性質と關換し心理質と定むればあり昔日セエイキスピーヤー
 氏が輕薄人種の出生ると不愉快にして陳腐退屈なる同衾に歸せし
 唯に詩人の想像にあらせ○久しく情欲と抑制する成果の其兒に現
 るることにて又右の道理あり如何とされば情欲の發動の常に休
 息時間の長短に比例ものされべきあり佛人モンテイン氏の親父の伊太
 利亞と交戦するに因て三十二年間家にあらせして歸來の後斯のとき
 佛國文學歴史に有名なる兒子と生れり又ゼーゼールショーの親父
 の長く公斯坦丁堡に在て歸來り其細君に貞操の褒賞と與へしあり○
 是故に淫欲の情の子女と造るが爲めに和合する處の原素と感動する

がゆゑに妊娠する前に於て既に子女の身に彰著勢力と顯はるものあり爰に疑問あり即ち淫情の現在とそれと果ととの如何ある成果と兩親に生ずる手余之に答て曰いん他あし自然に適ひざる健全の發情あり而して其感力の身體の養生とあれり夫れ軟弱ある婦人の性理に判然たる改良と見るの幸福ある婚姻に基くと往々これあり時として病氣あるが故に之と行かへば益募るべしと思はるる場合にては却て養生とあることあり去れば能く節制しざる情欲の要用あると云ふことと道徳學に於るがごとく醫學に於ても則言とせり如何ある情欲といへども余が此に處説の情欲より大切にして且温厚あるものあらんや醫學者の先祖および今世其跡と繼ぐ人等の人體の活潑あると快捷あると及びに精神の強壯にして且爽快とい愛の歡樂と適宜に行ひたるに基くといふに同意せり○音樂の時として神經の總體に大なる感力

と現さざして色情の方に格外ある働さしと現はるることあるがごとし今日術學上にては此情に音樂の大なる勢力を有つとと証するがために爭論しがさき事實と有てり

第五章 色情の放肆と抑制とに付て論ぜ

生殖のとたるや人間の隨意あるものなり然ながら造物主の之と各人の自由に任かして制することかきが故に人間自己の隨意と以て其身と囚虜とあはること多し依りて攝生の道理に基き此事の法律と論ぜると良とを〇強て生殖の事と屢るときの其成果の總身の健康に害と生ざると人の能く知れる處あり亦強て情交と抑制の危難に陥ると多しと如何とあれば情欲に克んとして其費を處多きと之あれば必ず術學の勸むる處を據れば強て放肆にせると強て抑制とい両かから危険極度あるが故にその中庸を撰用と良とを又術學の示論に従へば婦

人の氣鬱病及び其他の病と免れ得べし此等の病症の色情を放肆過と
 と抑制過とを待て發するものあり去れば此情の満足とを以て天然
 の權理とさせり○從來人間の万事に就て法律と設制するが故に此放
 情の一事においても法律と設制するを聞くに於いて余の毫も之に
 驚かそ歴史と讀に古代の立法者の夫婦情交の法律ある此嚴重の問題
 と以て自ら任ざると懲らざりし即ちソロンの制する法律に婚姻を
 爲しざる人の一个月に少くも三回宛夫婦の義務を盡さざんべあらざ
 といへりツロアスタールの制する律に一周間毎に一回と記せりマ
 ホンツの他の妻女として一周間より長く其夫婿に顧看られざるも
 のの如何なる婦人にて離縁を求ると得べしと布告せり去りあがら
 一般の標準とあるべき此等の律にあらざ又其他引証にせらるべき
 規則にもあらざ人間の立する制規の幾許尊敬せべしといへとも造化

と經驗とによりて引出されざる道理の更に大なる實價あるあり其故
 の凡て此等の制規の數其立法者の大なる愚昧と現表の扶とあればあ
 り○この事に就ての節度と以て第一とを是に由て健康と保護し強壯
 て且愉快と得ること倍せり何事によらざ歡樂と持重とするの術の其歡
 樂と縱恣にせざるにあり快樂と抑制するの賢哲エビキユーラス氏の
 理學あり○性的的愛と果とに於いて適度克己の余が後に説處の
 如く現に之と行ふ人のさめのみあらざ社會一般のさめに善事あり故
 に之と遵守の自己の益とあり亦他人の益ともなるべし先づ他人の益
 とそれバ只管に一身の益と計るより一層多く利益と受る處あるべし
 去れば是に因て二重の益と得るあり即ち喜悅と交感とを返償され且
 將來の愉快のさめに好嗜とと氣力とを増すものあり放情の過度の飽
 満病に罹る歎或の愛情と消失にいさるへし情欲の節制と以て自ら満

足とる處の眞實の愛の情欲と縱恣にして歡樂と撲滅とるものより更に著しき歡樂と得べし○然れば則ちハイツヤ(健康の守神)とブイヤ(美麗と愛の守神)の共に命ぜるところの適度の如何あるものぞ是亦定則と與へがし術學も亦メジャ人並びにポルシヤ人のとき制規と定むること稀あり術學の説ところの唯其極度ありサイラ(嫉妬の女神)とチャールリブシス(淫亂の女神)の差も亦大ある差異と生じ上に述ぶる古人の制規の陋愚あることの主は人間の年齢性質年時の季節等種々の感力と取捨することと誤るあり○爰に生殖の爲めに適合する只一の季節あること殆んど彰明あり此季節たるや大陽來復して土地と温煖め活動しめ草木皆緑に粧ひ諸動物の春時の軟柔ある氣と呼吸とるときを此時に當てり各動物自づから活發として生殖の春情と勃興と又此季節右の情と満足とるの其身と人種のために最も益あるもの

たり且春時孕胎する子女の他の季節に孕胎する子女よりの成長力強くして幼稚の間に死没するもの寡し輒近英國において能く意と注て比較する數千例の統計表に此事の疑ふべからざると證明にせり夏時の末に生れざる犢牛の多く成長して健全ある動物とあり難き世人の能く知れるところあり是即ち秋冬の寒氣に近づくに因ると雖も亦他の理由よりとるものにして恐らく他の理由と一層眞實とせらるべし是故に春時において發情の造化の乏からしむるものにして人種の善良と計るさめあり此季にありて他の季よりも一層情欲と放肆にそとも我身と損害とることあかるべし之に異ありて夏時の生殖の機關と使用に最も適合する季あり又秋冬の間の萬物實ざるの季あり且秋冬の情交の過度よりして身體と害ひ易きものなり○氣質の體中の諸機關の功用と制御とるごとく生殖の功用と制御とるに勢威強き活

力あるものあり神経質の人の大望と心懸るがとく多血質の人の愛と
 以て其主情とあそといへり又一例に於ては神経の一種特別の情態に
 よりて情交と催促或は忌避ふとあり某婦人の假令適度に行ふといへ
 ども害毒とありて情交の後數日間頭痛を發し或は疲労のさめに悩む
 ことあり〇年齢進みて情交の念稀くなりさるときは左に示す概律に
 注意べし即ち動物植物共に老衰する時に及んでの生殖の勢力の已に
 枯死さりと故に年少き時に情交よりして暫時疲労と覺ゆるものも老
 衰にありては一層重くして且長病と一連て起るものあり〇生得虚弱
 殊に胸部の弱き人の愛情と満足するに於いては慎まざればあるべ
 からる斯のとき人の情交よりして劇しき吐血を著し終に死にいさり
 しとの確例あり凡て生活物の動物植物と論せざるは繁生のさめに強く感
 ぜるものあり人間及び禽獸のこれがさめに疲労して精神と消亡こと

あり又求愛の時に誠に美しく爛熳ところの草木の盛花も一さび交
 接と遠なる後ちの自づから凋落るあり故に子孫生殖ことに因て自分
 の生命と短縮ざる様注意の肝要のとと動物植物共に交接の過度が
 さめに其生命と短縮るといふより確なるものあらざ人間この快樂と
 縦恣にそるの疲労と虚弱とと生じ容貌の美麗と動作の優柔と犠牲
 ととるあり若し情交の過度こと久しく續くときハ懸攀及び官能の虚
 弱と生じ殊に視官の虚弱を發し神経の功用と殺ぎ記憶力消失終にハ
 肺病或は死と引起そにいさる現今存命して在る高名物性學者の一人
 左の則言と主張せり各人身體の開發と生殖との轉比例の割合にして
 身體の健康の最高度の情交と眞の適度より過超せば保存がたし〇余
 が今發言せし概の理ハ健康と規則立るとに於いて緊要あるものにし
 て此の論題に付て從來時々定められざる明細の規則より更に示論と

かり且要用のものとも

第六章 情交と爲すべからざる時宜

愛に情交の非常に適當ざる時あり第一コーリソジャンヌ(耶蘇宗教の書篇の名)の第三及び第四句において夫妻孰れにても一方より要求られざるるとき夫婦の義務と避け嫌ふべき権理をいふとと訓諭せり然れども愛に婦女さるもの之と避け嫌ふべき條理の原因あり○夫婦の亂醉しざる時に妻女さるもの之と避くべきと至極の道理あり凡て夫婦の中孰れにても一方亂醉しざる時に懐胎して痴呆からびに癩癩の子女と産み出そとあり但し此事のありさるの往時數回にして斯のとき時に胚胎れざる子女の其精神と危殆さるの成果に付ての毫も疑ふべからざるの確證と記録に書載せり○又性的の羸弱も數屢父母の中一人或ハ二人共に酒類に酔ひたるるとき播種しふる成果あり又

軀體と精神の成長と發達に一種の滯止ヲ發し又一例にいての不幸ある子女仮令壯年の齡に達せるまで享生ると雖も漸く椅子に倚り掛りて起立せると得て簡單なる二三語と言ひ幼兒の衝物と以て遊戯れ始終稚童にして死亡るものあり○長病後か又ハ情交とあせバ劇しくあるべき某局部の患或ハ體質の病あるときハ情交と辭避せんバあらむ心氣のしき歎身體の不快歎或ハ又神經の病患あるときに情交りて結果さる子女の其一生涯右の患の分子と處有べし又某傳染病あるときに辭避べきハ固より理由あることにして未だ生産さる子女に對しての義務あると多し又貧窮にして資財なき者或ハ最早兒と設ことと欲せざるるときハ唯制規の外として全く情交と拒絕に一理あるべし○月經中の情交ハ其子女として癩癩病に罹らしむるといへる思考ハ唯世俗の僻説あり然れども月經中情交の抑忍についてハ他に一層

正確ある道理あり○妊娠及び哺乳中に情交の可否に付ての問題の後章に此の事情と論ぜるときに譲るべし

第七章 情交に苦痛あるとき的情態

人種のさめに重大ある功用(即ち眞に人種の成立と維持するもの)の苦痛と同伴すべきの造化の企てざる處あり故に情交るときに快樂と覺ゆれば健康あるの兆と知るべし之に及びて快樂の感あければ則ち疾病の徴候ありと自然るに行狀或の衣服に不注意と極め數年の間定期て子宮の位地と轉らしる婦人への彼の養生にして聊か害とあるべき理のあき情交の反て苦痛の泉源又の病患の根元とあるべし或の婚姻するに次で發る子宮病の多の情交と過度に放肆が爲にあらざして婚姻せざる前に既に陰部が自然の位地より轉りする婦人にして情交と爲せし(假令過度にせざるも)より發るものあり紐育の高名ある醫

學博士サー、ゲー、フリード、マス、氏云へるとあり放蕩奢侈の僻習よりして其身と羸弱し又のその子宮と根元の位地より全く押出し恐く又月經中注意しきさぐさめに確り子宮の變態ともちかから婚姻の床に入りする婦人への情交の毒とある感力と有つと猶胃中に食物と入るる消化の機關に聊も害とあるべき感力と現されども既に其機關と濫りに用ひて破損したる溜飲持の人が食物と取り入るるに消化の機關に害とある感力と現そがとしと非常の苦痛ありて如奈にそるとも神經の動亂と發そとさの某か病患の現在こと確實あるものあれば直ちに相當の指圖と受けせんべあるべうら此期もし猶豫して手當せざれば終に醫者の術と借るほどの大事に至るべし且へ斯のときとさの必を其困難と増長するものあり之に反りて至急て補助と爲せば斯る場合にても大抵の好結果と得るものと

第八章 不妊の事

婚姻とると雖も決して人の母親とると能はざる婦人と指して不妊といひ荒漠といふ此事なるや大なる不幸の原因とすると多し幸福の神の萬事に就ては婚姻しる夫婦と恵むといへども若し其志と嗣ぎ家と繼ぐべき單一人の子女も恵み賜ふと嫌へるときは恰も笑顔に慄感と含むがとくなるべし故に此事情の原由と搜索し其動と如何に拒絶或は治すべきや否と吟味するの大切なることとを○蘇鐵 エツジンはルグの醫學博士ダンカン氏の立派なる研究に因て左の事と顯はせり

「子女と設べき賦性の夫婦の婚姻と行ひしときより最初の子女と産出るときとの中間の大凡十七ヶ月あり而して婦人の荒漠あるや否やの疑問の婚姻と行ひし後三ヶ年の中に決定らる」と若し婦人此年月に子女と設されば其後にいふりて假令子女と産とあまると雖も誠に僥倖とい

ふものにして丁度一に十三の比例と以て婦人に背けるあり故に婚姻の後三ヶ年中に子女なきとき其不妊の匡救得べき某不具の事情に關係や否やと研究の子孫と有んと欲する人のためは甚だ重大なるとあり○子女と設と望むに婚姻と行ふ時に當て妻女の年齢の大なる關係と爲すものあり新婦の年齢二十五歳以上においてその年齢の増加に従て婚姻の期と初産の中間延長あるものあり如何とあれバ二十歳より二十五歳までの婦人の最も孕み易き期のみあらば婚姻して後妊娠生涯と始むるも此年齢より若き歟或は年長なる婦人に比ぶれば尙速かあると發明べかり早き婚姻二十歳以前の時として晩き婚姻二十四歳已後のものより孕み易きことあり英風に於ては尙深く左の經驗と得たり即ち十五歳より十九歳の中間に婚姻と行ふる婦人の中大概十四人に一人の子女と生ことあり二十歳より二十四歳

の未までに婚姻しよる妻女の殆んど皆子女と持てり而して此年齢と
 超れば婚姻を行ふときの年齢の増加に従て子女と生ざる例漸次に増
 せり○爰に不妊に二の種類あり是れ物性の然らしむる處にして總て
 の婦人之あるものあり即ち未だ成女とあらざる處女の未だ年老て
 月經の注出と歇止する婦人の不妊是あり然れども極めて稀なる例に
 おいての年老て月經の歇止する後妊娠することあり當日公布せられ
 ざる一例に月經歇止する後九个月にして妊娠せり又他の例にての
 月經歇止する後十八个月にして妊娠せり又極めて稀なる例に於ての
 處女の未だ月經と見ざる以前に妊娠しよることあり○晩く婚姻しよ
 る婦人の從て不妊の齡に達すること遅し是即ち妊娠と始むることの
 遅きと償はんがため其生涯の晩にいよるまで子女と生の理あり去か
 から此より早く婚姻しよる婦人に比ぶれば年齢の増進まで子女と生

ことと續次といへども元來子女と生産の年時の他の婦人より短か
 し造物主の此婦人の成女の始において女たるの義務と盡さざれば失ひ
 ざる時間と其生涯の終末に於て全く償ひ成さしめど如何とされば早
 く婚姻しよる婦人の妊娠する期の年齢増進して婚姻しよる婦人に比ぶ
 れば仮令早く終るといへども積りて見れば妊娠生涯の年時の甚だ長
 ければあり○是迄子女と生たる妻女三年の間胚胎されば爾後大概
 妊娠せざるべし且此時間の長くあるに従て孕胎こと倍少し初産の後
 尙孕胎ことと歇止する婦人の産と産との平均時間の大凡二十个月な
 りと○婦人乳と哺せる中の大概孕胎するものなり就中産後早き月
 の間の孕胎するものあり如何とされば乳と哺せる間の生活力の總て
 醸乳の方に集ればあり乳と哺せると九个月或は二十个月までも
 延ばるとき其兒の乳と離るるまでの多分懷胎することあり○季候

の寒暖も亦婚姻の實と結ぶに感力を爲すものあり故に南方土地に於て子女と産こと多くして北方の土地にて子女と設こと少し某國某季節にて子女の數その地方の食物の量と反比例する目的目録にて穀物の價高くあるに従て子女の數を増し而して子女の死する多しといふ〇季節も亦人口の増殖に勢力と有つかり余既に春時の孕胎に最も適といへり而して晝と夜との妊娠に關係を爲すや否の未だ知られざるるところあり〇世事の親族の多寡に大に關係を爲すがとし富有にして時好と専らとせる婦人の貧賤して強き働きたる婦人に比ぶれば子女と設と少し故に富と樂との屢母の稱號と幸ひに交易せらるゝがとし〇今此處において廣く社會總體の生殖上に關する概律の働きて論じさきとされども其よりの聲 各人において全く不妊の原因を探索こと余が尙更に目的とみる處かり世人婚姻して兒なき時常

に其妻女に罪ありとそれども妻女のみ失ありと考へが少し多衆の夫婦の全く無胤あるとあり如何とされば強壯く健全なる男子の皆種子ありとせるの誤認さればかり或の又婦人一回も活する子女と産するとあき故に到底孕まざといふ理由なるべし大凡婚姻しする婦人中其八分の一の活する兒と産ことあきと以て此分丈の人口と増殖ととかしと雖も生活物の種と婦人中に播するものこの數より多しとせるかり産出後久しく子女の生命の弱きもの其産れ出さる已前の成立極めて脆弱あり又胚胎て間も早く死するもの多し年壯き妻女にて月經が規則立する期より兩三日後れて非常に長く且注出こと多きとこれあるの往々彼の孕み兒の生命が成立や否直に死する証據にして是れ婦人なる者早晚經歴をべきとあるべし故に親族の妨とあはもの只流産にして是れ隨分療治と施ることを得るものあり

○情交に感じあき婦人の婚姻の幸福と見るに障屏とかり且兒と孕まざる普通の原因なる人の能く知れる處あり此障壁と取り除く最も好ましきとにして多くの例にて其原因と研究して之と除き去るに甚ど難きとにあらざれば此原因なるや爰に一々枚擧の最退屈あることにして益なきがやどに數多あり如何とされば此多くのもの特別にこの事と學びざる慣手の醫師のみ發見して治すことと得ればかり且又懐胎と妨害する子宮病及びに種々ある子宮の變位に於ても同様の事たり然れども適當なる醫術の療治の常に最上の成果を得るものあり○情交に快美と感覺ことゝの兒子と孕むに善き前兆あり然るに賣淫女の荒蕩ありといふと久しく人の知れる所あり巴里斯において曩時左の經驗とあせり一年間に娼妓一千人にして兒と産するもの僅かに六人なり之と同年時にして同地平人の比例の人口百人毎に三人半

の出産かりといへり○或婦人の情交とあそに只非常に激しき情感と漏るより外に何なるともあし然れども斯のとき例の同じ成果と爲るところの之と反對ある(情交の快美と知らざるもの)極度の例に比ぶれば甚ど稀なり○病氣或のその血液に何か一種の毒氣あるときの子に孕むに妨害と爲る耶否らざれば之と相似する流産と發するものあり又表面の弱質ある婦人の多く數多の兒子と設ものあり然れども斯のとき婦人の未だ妊娠せざる已前に強壯劑と飲む或の其代用に體質の治術と要することあり之と異て富有とくに肥太りて兒と産する婦人も貧陋かりて瘦せ衰へる後に兒と孕みざる正確なる例あり○夫婦暫時別離して在りて後に情交するときの新しさとの衝動と發して以て兒と孕むとにおいて有益なる感力と與ふると屢これあり○懐妊することあきり誠に瑣細なる體質の變りに關るといふとと顯さんごさめ

に各人の能く知れる處の某良人と配偶て子女と設ざる婦人も他の
 良人に嫁して子女と設との事實に憑れば充分に彰明あり物性の不和
 合ある此の狀態の全く内感より生ずるものにあらざるや明りあり如
 何とされば此事の獨り人間ののみならず諸動物においても經驗らるべ
 ければあり即ち同じ牝牡の動物双方共に數多の兒と産むといへども
 或る動物に配偶すれば更に兒と設ざるを見るの必らずしも稀有ある
 とにあらざり○往昔の男女共に子女と設ざるの同じ氣質と同じ形
 容の夫婦に殊更に多しといふと信用せるが故にヒポクレイツ往昔
 の名高き醫者(氏の名を以て左の一條と説諭せり白色の婦人の黒色の
 男子に配し瘠て弱き婦人の肥て壯ある男子と偶し總て男女反對の性
 質と配偶せんばあらざり○婦人の不妊といへども敢て失望する者か
 られ當時見あくして數年の後胚胎ごとく往々之のわり詳らかに之と云へば

斯のとき婦人の其生涯の某る時限の間のみ不妊にして此時限と過去
 れば其氣質年齢と共に變易て能く妊娠せるとあり歴史と聞それ路
 易第十四世の誕生において此異常の著しき例を知る即ち此路易第十
 四世の其は澳國の皇女エンと號し當時佛國の女帝にして婚姻の後二
 十二年にして出産せし處ありヘンリン第二世の皇后キヤワリン、マ
 メシシーの十年間不妊後終に子女十人の母親とされり又倫敦の某醫
 學士の此事に就て一婦人の例と顯はせりこの婦人の十八歳の時婚姻
 と行ひ其身及びに良人と共に不斷健康ありといへども四十八歳にい
 たるまで妊娠せしとなく此年齢に始めて一子を生り又爰に記載せる
 他の一例あり是れ体格健全ある婦人にして十九歳の時婚姻と行ひ
 五十歳にして始めて懐妊せり○或る親族において子女あきよりし
 て艱難と生ずること多し然れども開化國の人民の聊り斯のときこと

あし彼死亡に因て減せる數と補助べき人種の定力と究めんがため輓
 近諸國において其穿鑿に充分注意て着手られしが平和の世に在てり
 其人口と同じ点に保存こと社會中の婦人の只半數の生産量と以て増
 殖とき充分ありといふと論定り故に造物主の生殖に不慮の過失あ
 りて人口の減少と豫防がために剩餘の準備とせり○造物主の又人
 口の不當に増殖と防ぐべき法と立より生計心慮交際の快便及びに開
 進の擴張の自づから人間の婚姻として子女の生殖と漸次に減少しめ
 て人口の増殖と全く滯止歟或の殆んど滯止の形狀と爲すものと見え
 たり但し此事たるは西瑞の名高き著述家シスモンジト氏の世態學に
 不易の則言として左の語と發するが程に明瞭あり其語に曰く「世間比
 較して婚姻の義務操徳及びに幸福と盡る人の衆多が婚姻する國處に
 其各の婚姻により生るる處の子女の數の少きものと」是故に某制

限と超する人口の増殖の悪害にして幸に戦争饑饉及びに疫病に因て
 拂ひ去らるるありと主張どころの經濟學者の説の造化も亦幾何り之
 と証するあり此理と推とさるる戦争饑饉及びに疫病の仮面にこそ慘
 酷かれども其實の邦國と恵み玉ふ幸福あるべし然れども造化の彼マ
 ルサス及びミル氏の主張とこのの劇論よりの各人の思慮と道德の教
 育及びに開化の進とと以て過度の人口と減少とすべき一際優柔くして
 確實なる方便と指示をあり○是故に不妊の種々の原由の人力の能く
 及ぶ處にあらざること彰著あり此等の原因の至局面より見れば大に
 善きとされども余が今説示すところの強て關係なきものあり然る
 に愛に他の原因あり是れの妙手段と以て左右せらるべきものにして
 その一二のといふ余が既に論示しところの治術あり而して余の特別
 なる左の問題に付て示論ととに取掛るべし

第九章 子女と設つたと請願ふ妻女に對しての示諭

月經の甚だ妊娠に類する顯像の一群と現はるといふ久しく世人の了知とてころにして處女に經水の始て注ぎ出るの生殖力の萌生ところの確證にして年老て月經の歇止の同じく生殖力の消失する徵あり孕胎と成るや月經の注下こと忽ち滯止ものあり大凡孕胎の經水の注下とに始るものと之と約で言へ月經の注下直前殊に直後の孕胎するに最も好時宜あるの今日充分に確定される事實あり佛王ヘンリー二世に高名あるフナルナル氏の授し此の道理に基ふる諭示と履行するに因て其皇后キヤツリン、メジシーの年久しく不妊後に數多の子女と得しかり紐育の大學教師ベッドフォール氏云へるとわり數年の間子女と得んと企望されども得ると能ざる人に幸福と能ふるに右の示諭と以て成效する多數の例と掲得ると〇又殖事を爲したる後に

婦人の休息するの孕胎と一入容易からしむるものにして就山床上に暫時休息するを良と醫學の元祖ヒポクレイツ氏此理を知覺て見せき妻女に對して之を鄭重に諭示せり〇子宮と乳部の最も強き交感と以て互に結び合せざるものにして若し其一方を發動せば必也他の一方に衝動と起るべし醫學士チャールス、ラウドン氏の兒子あきと憂ふる婦人にして此の教諭と履行れば七人の中四人までの母とあるを得といふことと顯はせり高名あるマーシャル、ホール氏も亦之と同じ思想と爲せり但し同氏の強壯ある子女として乳と哺しむることと示諭せり又月經の注下直前に一日に兩三度づゝ乳部と脊面の丁度乳部と齋頭所と温熱ある乳汁と以て滴し及び吸乳器(乳と吸ふ器械)を用ふるこの醫術の權方と以て確實に獎め得るところあり又身體の疲るゝ迄馬に乗りて運動するの時々孕胎をかさしむるものと思考らる〇不妊

人に對して子女と産と成就せしむるに最大なる企望の體質の偏重
 ところと矯正にあり然れども此事の甚だ難法して唯適當なる醫術の
 教諭に因てのみ成就せると得べし總て不妊人と孕ましむることの
 方今にいふりての往昔の如くあらざして甚だ確實あり實に醫學士マ
 ーリチン、シムス氏の晩近の研究に謝せべし且方今にての妙手の醫師
 は是まで万事も想像の説と試験とを以て爲せし原因と研究てその治
 術と指示とを得べし故に不妊妻女も早晚母とあると得るものなれ
 べ全く其望を棄絶べからせ

第十章 子女の數と制限る説

此書の論題中何れの部なりとも此所のとく論説難きものなし世間一
 家族に其子女の數と幾人と其制限と定むるに適當不適當との穩ある
 論説と聽んと欲ふ人の至て僅少あり一方にの尊ひ敬ふべき多くの懸

者及び慈悲深き傳教師ありて余等幾許に証據と引き過數の家々を設
 つとと避くべき方法と説き示とも敢て耳に聽せして之と答むるあ
 り又一方にの醫學者の忠告と傳教師の雷の如ある激しき言とも聳の
 如く聽せして自己等の負擔べき責任と強て免れんがため最も危険し
 て非道ある手術と爲すと猶豫せざる夫妻無數あり○余この二者の仲
 間に對して請ふ所の各自その自信心と僻見とを暫く措置て此緊要か
 る世態論題に此件の關係丈けと余と共に吟味せよ○先第一に世間過
 度の生殖即ち過多の兒子と設つことのとさものあるやあきやと吟味
 せしめよ然り無論之あり此事さるや母子共に福害を受くるとの知懸
 ある醫者等の了知れる所あり醫學士ナルト氏の曰く子宮病の凡百の
 例にて其三分の二の羸弱婦人にして子女と産さるが根基ありと又流
 行醫師として婦人の過數と出産せしより生ぜる虛弱と疾病との例に

出會ざる日、殆んど稀れあり、加之、下等の動物にも、此事を顯し
 せり、各農人の其畜とて、その牝馬、牝牛に、其産むところの兒の數を、限
 るとの要川あると知覺れり、是故に、若し此損害を、婦人の軟柔なる機體
 に受るとき、幾何う苦しうるべし、エツザン、ボルクの醫學士、ダンカン氏
 の曰く、「産と爲ると、刺り、數回あるときに、神死の産室と訪ふと、極めて
 大いあり」と、○孕胎と陸續して爲ることの害、獨其母の之から、其出産
 子女に、いいて、も影響あると、彰明あり、醫學士ヒリヤー氏の曰く、「子女の
 不具ある原因、孕胎と過早に陸續して爲ることより、多きあり」と、此等の
 事に於て、誰人も、同氏の説と批難を、べからず、彼の矮軀病患にして、天
 折せる子女の、過度の出産より、生ぜるものあり、猶且、禍害するや、蘇國に
 於て、能く注意して、集算する統計と見るに、斯るとき、子女の、殊更に、痴呆に
 成り易しといふと、表し、せり、凡て、此等の子女の、其母親、子女の、數多し

ために、既に、困却する場合へ、猶一層任へが、さき重荷と負はしめらるる
 が、故に、斯る、不満足の子等が、要する所の、保護と、其母親より、受ると、能
 はず、且、母親の、自身と、麻痺したるうへに、又、虚弱き、子女と、産あり、醫學士
 ダンカン氏、此論と、結ぶに、臨んで、左のと云へり、「親族の、過數より、積る
 所の、禍災、上件のと、し、豈、忽せに、せ、べけんや、○此、思考の外、更に、又、或
 る、世態論あり、偕、此論するや、某人の、子女の、少からんと、論示んが、
 め、ありと、せり、即ち、父母と、あるべき、夫婦の中、一人、遺傳病あるが、故に、我
 子として、此、禍害に、罹ると、避けしめんと、欲するときに、兒と、生ざる、様
 に、爲すべしと、慫慂り、如、斯、疾病の、多く、婚姻と、行ひ、する、後に、て、現るるも
 の、おれば、彼、子女と、設、ことと、欲まざるもの、婚姻を、べからず、との、難問
 に、對して、充分に、辨解せると、得べき、あり、又、爰に、妊娠の、九、月、間の、困苦と
 三、四、ある、婦人あり、或、又、妊娠の、致命と、証するに、粗確手ある、婦人あり、然れ

ども斯のとき事情の婚姻と爲さざる以前に發見し難きものあれば到
 底獨身と固守て之と預防せざる能はざるあり唯斯のとき婦人に向つ
 て云ふべきことの自身と性とならざるに生殖の事を促さなければんや○彼
 坂群の著述者ジョン・スチュアート・ミル氏云へる言あり飲酒その他凡
 百の情欲と謹慎されば最も容易く咎めらるゝと雖も此件(淫欲と縱に
 して過數の子女と生むと云ふ)に於ての不謹慎と常とせるのみあらざ
 その犯し縱まゝにせると以て翻て他の賛賞と受るゝ甚だ奇怪あると
 ありと尙且之に加ふるに左の語と以て「過數の親族と生との羞愧の
 醉倒及び其他身の不行狀と同じ感覺と以て見らるゝの世運にいふる
 までの所詮道德の今日の形情より改良と企望むも無益あるべし」と高
 名ある醫學筆者大博士ツライステール氏のこの語と評せると次の如
 し若しミル氏の説に誤あるとき予も亦謹んで此誤と負擔ふべし」と

○南方歐洲の博識ある歴史家シスモンザー氏の曰く我々が生命と授
 るところの者(己れが子と云ふ)に對しうる我々の眞の義務が神聖の權
 カ(耶穌教と云ふ)と以て明瞭にあつて危險さ偏見と人々信せざる時運に
 至りしあつた婚姻と行ひうる人其子と適當く生育ることと得るより
 過數の兒と設つとあかるべし○上條に著しうるものと即ち醫學者
 と政事家の語言なり然るに道德上のことよりして猶激しき訴とあせり
 最も惡むべき墮胎の罪は今日にては畏縮べき程盛んに流行す此墮胎
 の隆んに我米國に行はるゝの異教羅馬の婦人として戰栗せしむべき
 あり此事に就て諸方殊に新英國にて証せる所と見れば過時二三年の
 間にして米國女子の道德と教法との全く地に墜さりと信せしむる程
 に増加す此盛に流行の殺人と我々如何して禁むべきや大都會に於
 て下等男女の數百人無辜人と殺せし以て己自が生業とし公然たる市

街に於て非道の所業と以て得ざる所の金満人の血より絞取る金貨に得意れり此輩が職業と新聞紙にて公告し而して彼輩が他人の精神と身體とを殺その方便の到處の小市街にても公布ざるのよし斯のとく便利と以て女子の身と誘促をがゆゑに過数の親族と懼るゝ婦人の如何なるかと爲るか計り難し此婦人等の邪道に陥るを犯罪と重んじて其本心と失ひざるべきや哀哉大都會の中央にて毎日經驗と以てこの生命と危ふくする邪道に甚だ屢陥り易きと余は了知あり〇過度に見て生むとの害と流行する墮胎の罪と犯せとの害とと論せんがため秀才にして交感深き人たる巴里斯の醫學士ラシボルスキー氏の世人の過數に子女と設つとと選て好加減にせるとの獨り正法に適ふのみからせ并せて公益と計るの方法あるが故に之を勸めんばあらざると主張せり同氏の曰く「僕此説を布告せし以て幾何が苦々しく他に

駁論さるべきと知れり然れども若し冀いくな僕が考説が少しありとも社會の爲めにあらば凡犯罪中の最も重しとせる彼の産前産後に殺子の大罪を拭ひ消し且又貧縷の爲めに己と得せ己れが子女と賣淫女歟或の乞丐兒と否しむるが爲めに産み出せるところの親族の胸中に少しく歡樂と灌ぐとあるべし斯のとき僕が企望の實行するゝと見るに至らば僕が説の駁撃るゝ中に於ても僕が心と慰むるとあるべし」
 或人の子女の數と定限ことと願ふものゝ其淫情と非常に放肆にせる
 とと欲するの心慮より出たりと飽くまで反復して之と説たり余斯の
 ととき人に答ること左のとし汝等の人間の正心と知らせ信せざるもの
 か其故如何とあれば此企望の實に其子女と愛するの本心よと起る
 と多し凡て父母するものゝ其子女と適當に養育致訓だけの産みて是
 より過數の子女と設つとと選んとと欲し其子女として物毎に缺乏か

からしむると欲せり紐育の子ニシヨ新新聞の記者某のこの感動す
 べき論願の一項に云へることあり即ち子女の數と定限の措置の甚
 尚ぶべき念慮にあらざれども其中に自から人情の美事と存と醫
 學士エドワードリーチ氏の親族の過り速く増殖より各人及び社會に
 生じる限りなき災害と論ぜるとの末に左の言と發せり人種生殖の功
 用の人意と以て制御せると甚だ好ましきとありと○人々自己を放恣
 にするに能はば之と遁辭と見出ること甚だ易し若し他の事にて遁辭と見出
 こと能はざれば之と宗教の中に搜索し婦女に語るに耐身の能はざる丈
 の幾何にても兒子と産み出ると婦人の義務ありと勸るなり且往昔の
 強壯ある婦人或は米國に移轉する北方歐洲の貧賤婦人と證據として
 已か妻女に要むるに兒子と孕むこと右の婦人と相競て數多かるべき
 と以て斯のとき人の已が妻女の輕柔ある家内の仕事に堪ふるべし

生育てられたると又其妻女の體の機關の一入感と強くして柔弱ある
 こと及びに彼等の數回の分娩に堪得る如の勢力と全く有たざるもの
 ありといふと省思ざるあり○且又如斯の人の婦人の分娩に堪ると
 と望願こと過大あり數年前マサチューセツの醫學社の集會にて某秀才
 醫學士の左の言と發へり婦人として若し如何なる問題に付ても裁決を
 べき權と有さしめば彼等の必らざる幾人の子と産むべきやと論決する
 と明かありと又拔群ある醫學雜誌の編輯者某氏の左の言と放へり妻
 女たるもの少くとも必らざる其夫婦に對して牧師が其家畜に配ると
 こそと同じ念慮と要求すべき權理と有つと又シスモンジ氏の言へる
 とあり何時にても親族の増殖ことと不便ありと思ふとき公正と
 人道とを以て之と論ぜるに夫婦たるもの無妻ある人の耐忍ぶべき
 ところと同じ抑制と自ら耐えんべあらざると○名高き統計學の著述

者大學士ヘンリー・マックコール氏云へる言あり畜類の生殖の感動の發りあるときに之を放にして少しも之が爲めに心配せるとかし諸人間に畜類のとくちをせして己れに情欲と導き且之を制するの思慮あり然れども世人多く之を忘れて人間として却て畜類に等しき所行と爲そあり若し人生殖の情欲を以て正しき思慮貞操先見及び公正の管理の下に置くとき必らず人間の實益と大に誘導こと明意ありと〇此論に於て醫學並びに其他の確證を得るに缺乏する所あり之を考ふる人あらば親族過多して母なるもの爾身と子女の爲めのみならず並せて社會一般の爲めに其勞苦(産といふ)と休息んと道理上より要求する時ありといふと否むもの其真に少かるべし所謂この時どの何れの時と指とや是において復余の能いざる所のもの子女の數と幾何とか限て此の多し最早生むべからせといふとあり醫學の他の科目と

同じくこの條件にても其平均の數を示して各人と導くとの聊か其益あるとかし或ひの全く其定限と要せざる婦女ありて兒子を生こと陸續にしてそれが爲めに少しも苦むとかし或る婦人のその數婦女總數の半ばより多しこの一事においても他の各種の機關の功用に同じく節制と要するあり又或る僅の婦人の全く兒を生むべからざるものあり抑婦女の其身の爲得づけの多くの子女と設と生理或は道徳上の義務ありと主張醫學者又の教法學者の説に誤りあり方今にては斯のとき害ある偏見と排斥だけ婚姻とれば則ち兒子と設つこと自然の順序ありといふ中にも情交の節制といふべきものと居常に心に記せんべあるべうら情交の過度の他の欲情と同じく道徳に悖り而して母子の身上に物性律の赦さざる確實に嚴重ある懲戒の來るといふ眞の理と了知べきあり〇凡て妻女の其夫婿に淫情と克己して節制をへすと

要求すべきとあり然れども斯云ふばかりにての奏功あかるべし夫婦
 する者の斯様に己れを節制と否み又之が爲めに一家の幸福と破
 り不義の戀とあそにいふり或の心理も性理も共に傷ふに至る依て約
 言それバ斯のとき説論の益あかるべし如何とあれば此條件の畢竟行
 へれ難ければありと我が國都鄙の難苦する婦人共より余に告ること
 千百言あり〇斯る難苦と受る婦人に對しての造物主の自から過數の
 生殖と防ぐが爲めに幾何り意と用ふるところあれバ之を守りて我人
 の身と益せざんばあらせと余の答ふるあり〇婦人乳と嘔しむる間の
 妊娠とること稀あるの世人の能く知れるところあり故に他に故障を
 さとさの其兒子に乳と嘔しむること少くとも一個年の間續けざんば
 あるべからせ然れども餘り年久乳と嘔しむるときは母子共に疲弱し
 て余が今上に勸めたる目的と達するとと止むるにいふるといふとと

肥臆ぞんばあらせ〇爰にまゝ造化の他の用意の月經循環の或る時限
 の間に各婦人妊娠とることありといふとかり卵珠の熟るときは
 經水と共に卵巢と放れ出て其卵珠の數日の間子宮内に滞止するものと
 其滞止間未だ判然知られざる所あれども其長短の恐く各人に因
 て差異あるべし月經やとるよる右の卵珠が子宮の内より逆り出る
 までの大抵十日乃至十二日の間と過了とべしこの卵珠子宮の内より
 逆り出たる後數日の間の妊娠とること能く然れども婦人其月經の
 注下數日前においての妊娠と成り易し如何となればこの數日間にて
 の先日と時する男素の尙子宮に生存るとと得ればあり斯のとき妊娠
 とするの時限の長短ありて之と定めがたきあり假令其時限と知るにも
 せよ甚く克己とるにあらざれば所詮之と守ることあるべし〇我國に
 於て最も手廣く用ひらるゝ子女の數と制限する方法の最も善むべきも

のにして之と行ふ人への必を恐るべき懲報を蒙らしめ且造化と道徳との意に乖戻るものあり余が言ふその方法との左の論題の事あり

第十一章 墮胎の罪惡

婦人妊娠すれば則ち新なる境界に入り新なる一人を生じその親族に一個の兒子を加ふるものあり故に注意をしくして流産する手或の藥劑と服み器械と用ふる等のと爲して故意この活動物を殺さところの母の丁度生れ出さる嬰兒と縊殺を欺或の半年も寵愛しさる赤子と爾が乳房より引放し石垣に投擲してその腦髓を碎き出さるとき大罪と犯したるものと全く等しき罪惡ありこの血の即ち爾の頭上にかかりて上帝と審判との確かにあるが故に必其母の體よりしてこの血を償ひしむべし今彼等が犯すところのもの人殺子殺の大罪あり言ふと能のを助授なき者と故意と殺せしかり抑此者と保育するの母

さる者の第一の義務あり○此犯罪の一般にして此の盛に行るゝの實に恐るべきとあり數百の人此業に身と委て已が職業と爲し大抵各村において此道の教導職とあり精神卑怯女子として苦痛悲歎して終に墓穴に陥らしむるがために其血に染みさる手を開けて相待り抑此輩の治術と受るもの己れの貞操と破れる未だ嫁入せざる婦人に少くして却て一家族の母さる人にして耶蘇宗と信玄宗教の社員に列る上等社會の的あり余の總て斯のとき婦人に訴ふるに欺罔とあざせして威懼べき言辭と以て若し婦人已が胎内の子に少しも感動するとかく母さるの心情斯のとき頗驚あるとき余の又其故意墮胎するの劇しき且危き子宮病と發その普通の原因にして多く早死せるの基ありと且神經の疲弱と風癲とを生ぜると及びに家内の幸福と破るの最も確實ある方法ありといふと知らしむべし斯のとき非道にして禍

害とある方法と作とより、寧二十年の間毎年一人宛、兒子を生むと其
 とを實に幾倍か之と勝れりと、已れが身に斯の如く罪惡の重責と負
 ふて享生るより已と得ざれば産の苦痛にて死するを以て勝れりと
 ○此二の者の素より之と要することあり、既に余が論する節制の法
 に因て損害も亦く罪と犯すことも亦くして過數の兒子を生むことと
 避け得るの如何ある婦人にて、爲しがさき事あるべうらぞ○此蔽ひ
 隠せる罪科に向て余の言辭と飾らせして正しく之と論告さんと欲そ
 如何とされば衆多の人この事と以て實に罪科するると詳知せざれば
 あり唯二三年前に社會の道德と以て自ら任せるどころの人々此事に
 就て左の言辭と語れり「知らせといふ遁辭の最早恕ととせし」と○紐育
 の教正コックス氏が其教職の手簡又合衆國カワリック宗の頭領故の大
 教正スゴールゲング氏が輒近ボルチモーにて會し、る配下の集合の

終りに臨での演舌及び新故學ブレスピテリヤン(宗派の名)教會のヒラ
 デルヒヤの集合等にて孰れも皆未だ生れざる兒と故殺その罪科に向
 て酷しき判決と報告せり且名高き醫者及び高尚教法師どのこの事と
 新聞紙に訴へ出せり願ふに該訴の必ら各人の手裡にあるべし○從
 來婦人の困難あるもの、墮胎の罪科と咎め忠告するゝと雖も一方に
 の過數の子と産きて疲勞と危険とを免るゝの方法の少しも教訓ら
 るゝとあしといふと余の此困難と十分に詳知して能くその事に
 適ふ様に説き來れり余が論說の精緻と心事の潔白あるとの疑ひと容
 られど之と信せり然れども若し余が論說と駁撃とところの醫學者及
 び教法師あつば此醫者の畜に余が識見に反對するのみあらざ普く
 米諸國の名高き醫師の識見に背違といふと知らせんばあるべから
 ざ又この教法師の性理の法律と怠るよりして道德上の惡に陥るとき

此惡と矯正の法の只其怠慢と治すの一にありといふことと忠告されんべあるべからば此例にて怠慢と云ふの過多の生殖にして惡との胎墮と云ふあり

第十二章 孕胎の理

八種と永續し之と生殖の方法と解明に在るために論じられざる事件の甚多し往古の理學者の想像説と加ふれば大概二百五十説許にして是皆有とあらもる時代の最も高名なる思考者の公告する所あり然し此等の説の誤謬多きが故に今此にこの古説と著のそも無益ありとぞ例へばパイサエラス氏の説のときハ蒸氣が腦髓より下りて種子と形造れりと想像り是故にサイシヤ人の生殖力と斷ち孕胎と防せがんと欲して耳後の靜脈より血と放るとと爲せしあり今代の術學ハ此説と孕胎の論題において從來あるところの多くの他説との誤謬にして

全く取るに足らざることを明かにせり打電氣ハ此不測なる功川に關入るや否やと問に今代の術學者の某氏の生殖の事と成就するに電氣の威力ありと想像り加之二三月前にホルチモ一の華盛頓大學醫學部の産科教師醫學博士ハ――エルバイヤード氏の孕胎ハ常に電氣の顯れざる像ありと信用するに盡くその道理ありて孕胎ハ即ち陰陽の電氣の全環配合に因て生るものありと主張を然れども此説ハ今世の格言として諸人の許諾せる所に非ず此事に付て物性學の明に確定せると左のとし「新體胎兒といふ」の一方にハ獨立の活動物ある男素と又一方にハ成熟せる卵珠の女素と觸合さる成果即ち二種の泡仔の中に合有もの接合ありと是故に若しこの觸合さるときハ於詮孕胎すると能はざるものとす○此最も面白き功用に關係して余が説述すべき實際上の事ハ唯この時に當て其兒子に及ぶところの精神の威力あり此

感力あるや從來禽獸及び人間に就て云れざるものありシヤコブの早
くも此理を覺りてラバンと狡黠ある約束を爲せり即ち斑点と絞痕の
ある家畜を以て自分の俸給とあそべしと如何とあれバ余此事を聞こ
と左のとし此約束を爲せし後シヤコブの青櫓ヘーズル(櫓の一種)及び
栗の生幹を取り各區所その皮を剥ぎて斑線を見るがとくあし之と溝
前に植立さり但し群羊の水を飲んがさめ此溝に来るとき接尾し輪痕
や文斑ある羊兒と産みさり是においてシヤコブの此文斑のある羊兒
と其群より離し且其衆群として常にラバンの群畜の文斑あるものと
棕色のものとの對向はしめ己れが群と別に置きてラバンの家畜と相
混ざるをさし而して強壯ある家畜の接尾せんとするときに何時に
ても彼の幹の内にて交合らしめんがさめに之と家畜の目前に置けり
若しその家畜虚弱と見れば決して其幹の内に入らしめざる故に虚弱家

畜のラバンの有とあり強きもの皆シヤコブの所有とあれり〇視官
と歴て腦髓に通ひざる感化の彼の家畜の目前に植ふる幹と同様ある
毛色の兒羊と産み出しざるがとく牝羊の身に感化を致せりと創世記
(泰西法經の第一篇の題號)と著しる人の執言り此事あるや少しも鬼
神不測の爲を所として著しんとあく日々に生る自然のものにして
人の能く知れる所のとくに記載せり〇性理の美麗あるとにおいて名
譽ある希臘の人民の心感化といふものと悟りたりと見えり其故の
彼等の房室中に妙工の模範に則とりて繪きさる男女の神體を擬せる
型像と畫像とを以て贅飾ばかり〇シレンキユーサ國の暴君ダイチニシヤ
スハ美兒と得んがさめにゼーソン(神の名)の美像を聞床前に掛さり〇
左の條件の高官あるギヤレン(昔の名醫)に就きて説くものあり羅馬の
一高官人の生來矮軀して醜貌且隆背ありしに其夫人イーツアップ(希臘の

名高き小説の中の怪人に似たる兒子と産み入り官人この兒の矮軀怪
 げあると見て大に怖れ且重て斯のとく不具ある兒子の父ならんと
 懼れて當時の有名なる醫師ギヤレン氏に咨詢せりギヤレン氏の彼
 官人に教て曰く闈房中に美人の三像と置き不斷に其若き夫人に見せ
 しめんがよめに其一像と足の方に置き他の二像の寢臺の兩側に置く
 べしと官人此教を固く遵守て終に己れが望の外ある美兒と産めりと
 いふ○子女の性質の共妊娠する時の両親の心と體の景況に因て大に
 定まるものあり其實の子女なるもの假令如何ほどその親族に育ると
 いへども同じ父母より生れざる子女の中に幾んど常に判然たる差異
 と生ぜるとの世間の經驗みる所あり父母の身體才氣及びに内感の景
 況に於て常に行はるる所の變化の逐次に生れざる兒子において等し
 き變化と顯るものとを故に雙子の大概万事に付て互に相似るものあり

り創生るとの瞬間の一般人の信用するより其兒子の道徳と性理と
 に關係と爲ると斯のとく甚だ大切あるものなれば父母なる者此事に
 付ての少く注意しよきものありこの瞬間の即ち造物の瞬間にして新
 なる活動物に始めて生活力と傳へ與ふるの機會あり惟るに造化の
 何りの理をければ之に接するに人間境界の最高なる情欲を以てせざ
 るべし長生の術と題けざる書冊と著しし醫士ヒューフェランド氏の
 曰く予が考ふる所に因れば此創生の瞬間の氣力壯んにして熱情を發
 し歡樂にして萬事憂慮せるとなく夫妻共に此事を欲するの際に限る
 べきこと最も緊要なるものありと

第十三章 情交の實と結びたる徴候

婦人に因て孕胎すれば氣絶暈のとき某る交感と誘出をが故に其徴
 と知れるあり○頸の膨脹の古代の孕胎の徴候かりと考るとして

其真正なるの今代の有権者の賛定むる所を亦孕胎するときは一般
 て身體の諸部分に震動を起し而して平常より一層快樂を誘起するもの
 と主張する人あり○然るに假令之の世人の信用する説をれど愉快と
 孕胎との必也しも相密接して其原因と成果の關係と有てりと限るべ
 うらむ此通俗の説を信じて過るに因て妻女する者孕胎の真正の景況と
 信せざると多し○或る例に於て胃腸の病孕胎と殆んど同時に現
 るるとありて嘔吐の氣味を覺えしより後九ヶ月と臨産の期と算する
 妻女に就て確たる例と記録に載せり○この論と終るに臨みて云ふと
 あり婦人玄べく何とも解明し難き一種の感じと覺ゆるとあり而し
 て今代の著述家の此感じと確に價あるものと故に右のとき變化の
 起るときに其心において直に満足する婦人あるべしと雖ども此徴候
 の往々欺罔あるとあり又時として孕胎すると雖も格別に變りする

事と知らざる妻女あり○某母親の孕胎しする時より胎兒の始じめて
 動くまでの體の他の部分に壓力を増その感じより外更らに體內に履
 行ところの行歩と直接に知ると蓋し胎兒の動くこと此書の他
 所において余之と説くべし○孕胎の徴候と其症狀との後章に妊娠の
 事情に付て論ずるときに委曲之と解明をべし

第十四章 良人の愛情を保存に如何して可き乎

嗚呼此事るや極めて秘密にして恰も幻術者の秘符アラザンの燈器
 (西洋の小説中にあるアラザンと云へる人の所持せる不測の燈器又ハ
 神仙の祈願帽子)この帽子を持つものハ萬事も心通りに成就と其定
 價と同ふするものと其の三の物良人の愛と交易するに孰と與へ得
 べきや然るにこの價高き眞珠もアラムマゼム(贗物の寶石)のとく最輕
 しく注意せして取扱はるると多し○何故をれば我が良人能く聞けよ

妾と愛その良人の義務あり若し妾と愛せむ眞に妾と愛せむ常に妾と愛せざれば何故に妾と聘娶りや」と年若き妻女の云ふと聞き聞さる宜哉然り余等皆か愛の贈物あり愛の負債ありといふ語を承知せり○然れども我人此世界において己れの物と得るに難きと問これあり而して之と得るるときに又他人に之と奪ひ取られんことと恐れて常に愛心の已む時をかし之と譬ふるに卿等温室に行て買ふる植物の卿が家の窓下其花咲き綻ぶありこの植物の己に卿に買れざるが故に卿の所有に相違あり然れども此植物と枯れざる様に保ち花と咲かしむるに毎日卿の注意と要せり夫れ愛の植物たるや此に比ぶれば其培養更らに難きものとそ是亦卿が他人より買得ざるものにして卿之れと交易するに自分の心と以てせしかり故に愛も亦その枯れ果んと懼れて斷えに注意して日々卿の盡力と要するものあり○我が國においての自

家に在るときは何と衣るとも構ひおしと思ひ寝起衣と着髪も櫛らば踵のあき坐敷靴と穿きて如何にも懶性に擧作る婦人あり斯る婦人の自分の良人の外の誰人も自己と見るものおしといへり斯るとき婦人の亞細亞人の妻女に就てその教訓を受けおんばあるべからむ○東方諸國の婦人の己に嫁入してより後の嚴装しき長き衣服と着厚き而覆と被らざれば決して外出とするとおし茲に英國の貴顯の夫人其惡意き富優商人の妻と訪ひするにあの妻女常に盛服と裝て恰から舞場に出るがとく充分に飾脩れり夫人之と見て歎じて曰く何故に卿の良人より外に誰人も見るとおきに斯のとく注意として其身と脩飾るとの爲得ものか」と商人の妻答へ問て曰く然らば英國の妻女等他の男子と悦ばしむるがために裝と爲とや」と彼夫人この一言を聞て語塞りて更に言ふと能いざりし○勿論我家に在て常に盛服と脩飾するの我

米國の婦人等に望む所にあらざして畢竟此事の一人として驚かしむるの自然れども衣服と清潔にとべきことと解り別して身體の清潔と慢る婦人の實に人としてその近傍に接づくと思惡し思ひしむるの大危難に臨むものあり況や良夫ある目的の思惡がるの惡もき臭よ甚しきものに臨む各婦人の總て清潔にとるとと解るときは殊更に惡しき臭と生じ易しといふ所以と知るべし婦人若し惡しき臭ありて簡易き手段と以て之と除き去ると能はざれば速く良醫に咨詢せざんばあらざり呼吸の臭氣において亦同ぢとあり呼吸の臭氣の時として口中から齒の掃除と怠るよとし或の胃肺肺臟等の病より起るものあり微妙鼻官男子の呼吸の臭き妻女として殆んど身邊に近づかしむると思避にいさる○或る婦人の斯るとき婦人と余嘗て數多に治療せり甚だ厭ふべき發氣と發し殊に手足等に多し斯るとき婦人の全く之と癒とま

での婚姻と行ふべからせ夫れ兵士に證書と與へて軍役より免ざるに煩る注意べき軍醫中の規則あり然るに惡臭足の時として軍役と免るに其原因とあるとあり依て其惡臭の甚しく人と思避がらしむるを得て知るべきあり又我聯邦の某州において足の惡臭の離縁と許そに其理ありと受理せらる此の足の臭きとの離縁とそるに通常に構造とそる數多の理由に齊しく充分の道理ありとそべし○約言に容貌と美しくし之と脩飾ふめに衣服調度等の害なきものと今日術學の誨る數多の有益ところの手段と利巧に用るの獨身の女子にせよ嫁入しる婦人にせよ必す忽慢にそべからざる義務あり唯僅りに意と用ふれば若年時の美しき容貌と爽快あるとと殆んど老年まで保護とと得べし且如何ほど粧ることも望みなきほどに年寄と雖も妨とあらざる手段の假令老衰と快復と能ざるも之と繕良ひ少くとも之と密その方便

とあるべし是等の事と説明に全く一部の書冊と要すべき術あるが
ゆゑに余の今此所においてその術と説き明かに違わらざるあり

第十五章 遺傳の總論

余の今愕くべき一論題の考へに來れり即ち遺傳の論題これ亦抑遺
傳の事なるや最も奇妙なる事實にして各人の繁榮の上に關する一の大
なる實際の事なるが故に之がために萬事も他念と忘るゝほどに實益
ある論題あり○此事件と能く理解せしむるに先づ遺傳の四の種類に區
別と付ると要用あり最も普く世人の詳知するもの直接の遺傳にし
て即ち子なるもの其父母の性質と受る所あり然るに兒子によりて
其父母に似せして其叔父或は叔母に著しく似ることあり此之と間接
の遺傳とを又某の兒子の其父母より却て其祖父の一人に一層能
く肖ることあり或は又怪しむべきの子なる者其遠き先祖の質と現

そことあり此遺傳の種類の羅列語のエータブラスより導き來りて術學
にて之とエータブラスと云ふ其辭意の先祖あり今この序でに左の
如く演るに面白かるべし諸時として或は男兒の男性の質において(昆蟲
類又の男性に畫りたる或る疾病)其父方の祖父より其母方の祖父に
一層近く肖るとあり假令其母の斯のとき男性の質と有ち又の現はそ
と能はざるも己れが血と歴て我父の質と己れが子に傳へしあり○
遺傳の第四の種類の其兒子兩親の孰にも似せして其母の最初の夫と
に似るものあり故に再嫁せし婦人の其最初の夫より受けざる特質と
後の良人に配偶して産まざる兒子に遺傳ことあり家畜牧師の此理と了
知て其胤取牝馬牝牛牝羊として拙劣種類の牡獸と放遊せしむると
禁む是故に或る男子の病の他人の兒子に傳ふることあり加之該男の
死去と雖も余が前篇に説するがごとく其妻女の全身に夫婦の交りと爲

しるる消さずべからざる感化と與へて後の良人に配偶て産みたる子女に感力と現はそことと止ざるあり故に再嫁せし母の其子女に頼りて既に死果する前夫の手に觸れその音聲と聞くとと得るあり○是故に或る兒子の此不測にして變へ難き性理の法律において己が父の犯せし罪にあらざして其母の最初の夫の犯せし罪懲毒等と云ふのさめに苦むとあり然らば則ち婚姻と云ふ男女の關係の幾許大切ある件手其責任の幾許遠きとざる哉○今此所に於て遺傳と稟質との區別と爲さざんばあらざ此稟質の父母の身質より享する感化の成果にあらざして其母の身に發る心の感力歟或の不圖しと事に基くものなり痴果又の不具の兒と産むの其先祖或の父母が斯のとき症と有の故にあらざして其母の妊娠中に某劇しき心の動搖と受する感力より生ぜるとあり此母親感化の論題の余が後に妊娠に付て論ぜるときに別段に説へ

し復或る兒子の假令其親族中に癩癩の質ありと雖も唯兩親の中孰か酒に酔ふる時に情交て孕胎するよりして癩癩持とあるとあり但し此例の遺傳に基くにあらざ其譯の兩親其他親族中に此病の質なればあり○遺傳の働と論ぜるに先づ第一に性質と關係せるものと吟味さべし此件の極めて普通にして世人の一般に知れる所あり幸に悪しき質のみ遺傳るにあらざして又美麗健康強壯及び長壽とも遺傳るものとぞ

第十六章 美麗の遺傳

體質の美の或る親族遺傳の特質あり當時希臘の最も美麗なるアルシバイヤジーズの嘗て美人の譽ありし某の後胤あり抑美麗と子孫に遺傳せるの誰人も好むものにして從來種々の方便と以て此感力と試みたりシリート地中海の一島にして今のカンヂヤと云ふに於ての美人

の種と保存をるために毎年若き男女の最も美醜なる者と撰擢び之れに婚姻と命令をる事の古き法律存在せり又容貌の不恰好あることも數世久しく代々その父母よりその子女に遺傳ふるものあり驚鼻の數百年の間存在して今猶アールボン家(佛國の王統)の遺傳ふる所ありまゝハブフボルグ家(澳國の王統)の下唇の常例外の容ちの遺傳る例あり詩人サプエージ氏の作に痴呆顔の第十番目の遺傳者と云へる如き世八履或る親族に在いて實見せる所の著るしき容貌の代々現れ出ると見れば贅言にあらざるあり

第十七章 頸及び四肢の遺傳

頸と手足の形造及び其長短の身の丈けに等しく屢遺傳をるとあり婦夫共丈け高き者の等しく丈け高き子女と生むフンデリクグレート(英國の王)の父のその守衛人として自己に等しく巨いある身丈の婦人と

のみ婚姻をると許可せしと以て巨人の一聯隊を得たり陳又肥大なる質の屢或る親族にありての代々相傳る所され其之れに醫術の力にてどうともあし得べきものあり

第十八章 色澤の遺傳

色澤も亦遺傳の感力と免れをプロンド(白色金毛碧眼の人)の常にプロンドと産み又黒色の親の黒色の子女と有つ色白き人と色黒き人と婚姻すればその子女の両親の中間の色と現れ然れども往々この例に違ふとあり如何されば色澤の最に父親に似るものと云へる説あればあり去れば黒人の父と白人の母との間に産れざる子女の白人の父と黒人の母との間に出来ざる子女よりその色黒きと甚ぶし此事實を説明すれば其母親自分の顔色と自分に見せして夫の顔色とのみ見るが故に自己の色澤と心に感染せるとかく却て夫の顔色に氣を奪れ

るを以て其子女に一層黒き色と與ふるものあり爰にまゝ黒色の牝馬の黒き卵離と産むと屢之ありと雖も反對の例と見ると尙通常ありと

第十九章 兩親の各より遺傳する性理の質

概て父方の外貌頭顱及び手足の形造官能の特質皮膚と筋肉の特質と其子女に遺傳易し然るに軀幹の大小子女の總様の氣質或は其體質の母親より傳ふる所ありと云へり動物中牡驢と牝馬との雜子あるミニ
ル其父親の總體の體格と有つが故に概言をれば異形の驢ありと雖も牝の圓あると體の大あるの母親の質と傳有へり又牡馬と牝驢の雜子あるヒンディーの總體の體格の馬に等しき故に最ある所の異形の馬あれども其父親よりの大いに小くして其太さと牝の較狭き所の母親に接近し此道理と推して諸獸概て然るものと雖も往々此例

に當らざるものあり今其例と引用せると甚は容易し即ち大親族の殆んど毎に其子女の或者の父親に類似所多し然るに他の子女の甚は母親に彷彿れり世上の兒子の容貌性質等と視るに其親の某判然せる形跡と現るとあき例に出逢ふの稀ありとぞ

第二十章 毛髮の遺傳

毛髮の色澤及びに其疎密大小等の遺傳するものとゾーウイン氏或親族と指して該一族の或者の數代の間髪の一髪其他の毛髮より色と異にせりと云へり

第二十一章 氣質の遺傳

遺傳の法律の八々の氣質と造成ることとも管理爲すものあり其氣質の異ありざる男女結婚とありて産生する子女の氣質の常に有益ある變性と現ると知るべし

第二十二章 多子の遺傳

時として多數の兒子と生む特質と遺傳とあり夫れ多胤の父母より産れざる兒子の自から多胤ものあり佛蘭西の貧賤しき或る婦人の十五年間に拾回妊娠せりと云へる話しあり該婦人妊娠する毎回復子にして以上二十八人の子女と産みしが最後の産の三人の女子と産出し該三女共成長して婚姻を各し各兒子と産てり然して第一の女の二十六人の兒子と産めり第二の女の三十二人の兒子と産めり第三の女の二十七人の兒子と産めり之れに反りて時として或親族の石胎の質あると見る尤も其人平常の養生により此患と免るゝことあるべし

第二十三章 長壽の遺傳

夫れ植物世界に於て檜樹の數年享生ふべき力と遺傳と然るに梨樹の暫時にして枯死さざるを得る動物世界にありてのロビン燕に類する

鳥の縋り十歳にして其羽色白灰色に變て老鳥とある然るにルーク(鳥の類)の百歳に迫るまで強健にして器啼くと止めを驅り馬に比ぶれば享生る期長しミュール(壯驢)と牝馬との雜子の長生の遺傳と著しく現れしものあり抑此獸の馬の大なる質と受け驅の生長と傳有つ故に彼が父と母の驢虚弱ければ母馬の質と承ること多くして其軀體大にして且強剛かり而して其生命短きと以て驢より馬に類似ると多し且又奇異にして知覺とあるべき事該ミュールの馬の享生る齡期と過了る後に最も強壯きあり是理の馬の遺傳へざる感力の既に盡されども驢の享生力と耐忍力のと殘存ばかり〇長壽の或血統の特有するとの世人一般知り得べき事實にて記録中にも最も正確なるが故に爰に左の例と引証をべし此例するや血液循環の發明者ある有名さハーブエー氏の證言する所あり諸バ―氏の英人にして同國の帝王が

九代讓祚する間享生へする後に其齡一百五十二歳に迄りチャールズ第一世の御宇に死せり彼れ死しする時百二十七歳の娘と殘せり且彼の父も長壽に達し彼の祖孫は齡百三歳にしてコークに於て死せり

第二十四章 不具の遺傳

時として子孫に不具と遺傳るとあるは疑と容るべからざる去れり手足の指の剩餘或の摺子木足及び兔唇と子孫代々承嗣く等その例多し茲に日耳曼國に一二の親族剩餘の拇と有つと以て誇るあり又亞細亞の或酋長のその先祖等右の手に二本の拇ありと記憶も出來ざる以前より評判せられり彼の有名あるグーウィン氏の引証せし數多の例の中に膝帽の位置の變りする一例と記載せり父親娘息子並びに同父異母の息子孰れも同様なる不具と有てり

第二十五章 各人特癖の遺傳

歩方身振音聲其他總體の風俗の盡く遺傳するものあり一種特有の操作のその人の習癖とありて其子女に遺傳すると屢これあり即ち時々引證に用らるる左の例のとし寐るととき常に背と下にし右の足と左の足の上に横ふる癖ある父親の娘の嬰兒駕の中に在るとき矢張同様の習癖と履行ひ之と矯正さんとそれとも得べからざる又左手利の遺傳もその例稀りらる今茲に如此數多の例と掲ぐるの最易きとされども右に顯せるものにて推知るべければ爰に載せむ

第二十六章 美兒と得るの法

今說話の順序の自くら左の實際論に及べり即ち形容の醜惡と避けて美麗と得んに如何にして然るべき乎カリビヂヤと名稱くる美兒と設くる術の輒近よりの寧ろ數年前に於て世人の大いに注意しものあり有名あるアーボット、シャイレット氏此條件に付て羅句語と以て一書と著

せり且該術に付ての第拾六百紀より第拾七百紀中に著述れざる數多
 の書冊あり然し此等の書冊の最に天文學と主とせり○余既に艷容を
 る親の等しくその質と子女に遺傳ざるの殆んど稀ありと説きたり是
 即ち類似の類似と生むの道理あり(養の矢張養と産むの譬然し不幸に
 して世界の親なる人盡美あるにあらざ醜容の人も多しと雖も誰しも
 子女の艷容と願ひざるのあし抑兒子の身の父母兩人の精心と感ぜる
 うちにも殊に母親の精心と感ぜるが故に常に愉快ある幻像面白き想
 像と以てその心に充る人の子女の身上にその感應あらざるのあし希
 臘の遊園公地に於てに到底にアポローケヤストーポーラッス、ナイナ
 ス、ヒーブ其他雌雄の神體屏列てその側と通過る人々の子女に自然と
 其形容と映射せり又老少不適當の齡に於て結婚すればその兒子生長
 せると不充分あると多きの吾人の詳知せる所ありまゝ氣質の異なる

男女及びに國の異なる人の婚姻の美麗なる子女と生むるものとを數
 多くの國に於て嘗み貴族社會に流行せし妻女と撰ぶに彼等が搜し出し
 能ふ所の最も艷美さ女子と購求むる風儀の貴族社會に高上き容貌の
 基礎即ち種と播たり該好ましき目的と達せんにより一年中の適當ある
 季節に當て兩親共に發情して且へ身體の健全ある時ばかりに孕胎せ
 るんべわら老(余前章に該事の節制法と示諭せり)母親の妊娠中目前に
 愉快さ美人の形ちと寫しする畫像又の彫像と備へ之れと屢目撃する至
 或ひの美麗ある摸像と數回眺観るとと勉めて必を醜人或ひの形容の
 損傷する病痕ある人と見まゝ考へるとと用捨せざればあるべからず疵
 傷驚愕及び如何ある病にても身體に痕跡と止むるもの特に雞痘猩紅
 熱の如き病と見ざるやう用心と盡そと極めて緊要あり妊娠中中能く
 その身の滋養と計るべし如何とあれば母親に食物不足あるときを殆

毎回其兒子と害ふがゆゑあり加之無恰好なる身振醜き風體と爲るべからば如何とあれば不思議ある交感に依り之れと胎兒に感染するこ
とあればあり故に怒り癩癩等と慎み精心と静め情又其身の愛慕と能
く保つとき胎内の子女に自然之れと賦與ふるとあるべし

第二十七章 才智の遺傳

遺傳の働きの恐く體より精心に於て強く現はるゝと多し是少しも驚くべきこと非若夫腦髓の特別の形と遺傳すること能ふるものあれば志氣の腦髓組立の成果あるが故に是又遺傳すること疑わし〇鋭き精神と賦與られそのうへ教育と受ふる両親より生まれたる子女の大概伶俐あるの吾人日々經驗する所あり然るに又無學愚昧に育ちたる両親より生れたる子女の生來愚鈍あるものあり去れバツンレーチャー、プリートール、アリストートル、セーキスピヤー、ミルトン、ブーフツ、

ブーヤー等の如き古今稀ある人々の自己が廣大ある才智の子孫に遺傳せざるの如何にと難論る者あらん之れが解明として才氣あるもの遺傳し難きものありと云へる説あり秀才の人物と造るに造物主の格別ある勉強と要むと察えて一回之れと造れば疲勞するが如にしてその後復て等しき働きのあままでには久しく休息せるあり然りと雖も才氣とも智慧とも關係せる至極入組する心の質も亦遺傳せざるや否乎殊に両親の二人共に該質と固有する時にその子の之れと承ざる乎と疑念ると良とを夫れ傑出の人多くの傑出の子と持ざる理由と知らんとされば遺傳の特質は両親の混同する感勢に基くものありと思考れば容易く解明るべし是に由て父親のよき質も母親の反對するわしき質の爲めにその兒子に及べば該長き質の幾分消亡すべし余既に両親の氣質の反對の奇遇にあらば寧常倒ありと説き

り各人自己の特質と異たる氣質の者と親み愛しよがるものにして即ち自己の性質に缺乏せると思ふ所の質と裨補ふが爲めあり夫故に母親の其兒子が父親より遺傳する質と稀薄し或之と消滅をべし茲に復余が前章に説きよるアタプテムの法に因て子女の身の上に遠き先祖の感勢と感染せしむると以て子女の天賦の性質としてその両親に類似ると防ぐとあり去りながら今此所に説きよる反對力の働及びに揭示さるべき他の働のあるにも關らば余の智力と特質の遺傳に就て數多の例あると知る○ケヤルトン氏の説に因て千四百五十三年より千八百五十三年に迨ぶ間に著名な創業者及び元祖ありとして世に知れざる人物の傳記と編纂めざる辭書に載せたる六百五名の中に同親族の者百二名の多きに居る即ち六人に一人の比例より少うらむツルフテールド氏の著せる今代の眞男子と題號する書の當時享生る英

國歐洲大陸及び米國の著名な人々の傳と載せるものにしてそれの中にAの字の部に八十五名あり此八十五名の内二十五名は同親族にして即ち三人半に一人の比例あり且之れが拾二人と兄弟にてその中十人は父子ありブライヤン氏の輯纂せる畫師傳辭書の中にAの字の部に三百九十一名の男子あり該内六十五名は近親にして即ち六に一の比例あり此六十五名の中三十三人の父子にして三十人の兄弟ありフエチス氏の著せる世界音曲師傳記中にAの字の部に五百十五名と有つ該内五十名は近親にて即ち十に一の比例あり今文學の上一片に注目に至極著名なる文學士にして至極著明なる同胞の文學士と有つ六人半に一人の比例あるとと發見せり該内父子兄弟の關係は二十八人に一人の比例あり英國のチャンセロール(英國の高官にして國璽と委任され且大審院の長官の三十九人の中その十六人の俊秀の同族にし

てその十三人は大英傑の親族より出たり此三十九人中十三人即ち三に一の比例の確手に遺傳力例の著しきものあり又米國マサチューセツ州及びその他の州の上等裁判の判事に付て類似の穿鑿と爲せしに右に等しき成果と得たり希臘の詩人イースカイラスはその先祖の中に八人の詩人と四人の樂人と數へり往古の希臘の有名なる摸像者の大數は摸像者の親族より降誕り傑出の畫師に於ても亦然りモーザールトの妹はその兄の音樂の才と分受けるが如くその例多し抑母親の感勢の父親の感勢よりも一層大なるものありと信ぜべき理あるがゆゑに此理由は余委しく後章に於て説くべし畢竟非凡の男子と非凡の女子と代々婚姻せざる其子孫の改良の幾程乎廣大なるべし

第二十八章 女兒の身に現はるる父親の感勢男兒の身に現はるる母親の感勢

余既に父母より遺傳たる性理機體の部分のことに付て諸君の注意を喚び起せり然るに又父母の各自のその兒子男女の別に從ひて特別の感勢と子女の身に生るるが如し夫れ父親のその女子の頭の形胸及らびに手の骨格と遺傳へり然るにそれより以下の體部と足の形造の母親の遺傳る所あり更に又男兒に於ては全く之れと反對あり即ちその頭と兩手の形の母親より受け膈と兩足の父親に似るものと是に由て賢女より生れざる男兒の伶俐にして智父より生れざる女子の其父親の心力と遺傳るものと云ふ説の右の理に基く故に一國の母親等のを國の法制局の中に見らるゝとなく而して該所に許諾するゝと之れをしと雖も今茲に説きたる不思議なる所作と以て該國の法質と定む知何とあれバ男兒の腦力の母親の質と受ければかり○賢女の譽ある婦人の中多くはその父の才智と反射せるとの歴史の上に於て證明あり

當時博學と以て最も高名あるエーリットのソクレーターの弟子にして有名なる理學者アリスタパスの娘ありグラカイの母あるコーチリヤのシビチーの娘あり羅馬帝カリギエーラの娘ありその父親に似て暴悪しくマーカスチーレリヤスの母の德行と遺傳へりコモーダスのその母の悪心と受傳へりシヤレメーの其女子等が過失と責ざりし如何とされば彼等の父の過失と照應さればあり亞細亞の有名き大將ゼンシスカンの軍好きの婦人とその母とせり第十四世紀の最も勝れざる軍人あるタメルレーンのゼンシスカンの苗裔にして母方の統と傳へりキヤソリンダメシーのその父に似て偽詐深きがうへに忘迷と残忍しきの父に勝れり彼れ己れに等しき二人の男兒と有てり其一人のチャールス第九世と稱て新教宗人と銃殺せり今一人のヘンリー三世と稱てグワイヌ家の親族と暗殺にせり該二人の外に彼れが

娘のマーカレトの溫柔ある舉動と以てその父親の質と照應せりアレキサンドル第六世の残忍ある功業此暗黒ある記録は永遠も歴史の紙上と穢そあらん(の)惡逆あるとに於ては彼れの不名ある子女ポールジヤ等が犯せる残忍の功業の之獨り之れと競ふと得べしエーリートハイパシヤ、マダム、ダ、ステール、ジョー、ジ、サンドの此四人の皆理學者と父とせりベルナード、タッソーの母は己れが詩才とその兒子に傳へりブーファンの己が母親の想像力に富ると屢人に語れりボチンス非凡と異名せらるるベン、ジョン、シモン、ゴエ、エ、ス、チ、ター、ス、コ、ット、ハイ、ロン及びラマー、タインの諸人は言語の快爽あると高調あるが爲めに著名き婦人より産出さるパイロン氏の己れの日記中にその身の依剝毘屋兒病(心經病)の一種の母親の遺傳ありと記せ蓋し該母親は依剝毘屋兒病の最も劇症の爲に死せり而して該母の父親の心經病の爲めに自

殺せりと深く世人の疑ひを受けりバイロン氏のその父方の親族に似るよりは寧ろその母方の祖父に似ると多しと評せられりモーリエーの娘のその才と氣性とに於ては父親に似れりビーワーブンの音樂の名人ある母方の祖母と有てりモーザートの最初の教科とその母より受けたりシヨンセバスチャンバッチのその子孫に樂譜人の一群と成せり該バッチ氏はチーガン(樂器の一種)と調ぶるとの達手及びその樂譜の作人にて久しく彼れに匹敵する人あかりし陳又音樂と學び得るとの能不能のその先祖の統と傳くと云ふの殆ど全く眞實ありと云ふとと得べし生來不器用に於て一調子も合せ得ず又一譜も歌ふと能ざる父母の音曲の美音の調和に感ぜざる己れに等しき子女と生む夫れ女兒の身に父親の直接の感勢及び男兒の身に母親の直接ある感勢と解さ明と數多の例と尙この上に説述し得るは容易けれ其既に顯せるもの

にて充分あるべし

第二十九章 遺傳の性質と左右する教育の感勢

精心に受けざる惡しき成果と矯正とに於て甚だ緊要あるもの、教育あり或る惡しき質又の剛發ある質と以て生れざる兒子も教育の仕方因りて該質と全く拭ひ消せると得べし假令之れと消失と能ざるも之れと變換ると得べし又之れに等しく天與の操徳も稚童の習馴易き時に惡しき友及び惡しき習慣の爲めに失ひるるとあり○此故に遺傳する精心と道徳の質と變るに教育の關係とあると甚だ重大ありと今夫れ不良ざる質の遺傳と防ぎ而して善良ある質耳と願ふとと得べき乎と問ふに我人初めて生れ出るときに有つ所のもの、盡く先祖より遺傳するものありまゝ操徳の習慣の遺傳らるべきものある乎我人自身に有つ所の操徳と以てその兒子に之れと所有しむる

と得べき乎の答へにつぎ、輓近術學に隨身ぬる人とし悲しくも左の語と發せしめさり、吾人先祖より傳來する質と其儘子孫に傳與ふるより外に何事も爲し得難く而して該質と變易する力ありしとそれ子孫に或る變易と生ぜるといふ一二世の力にあらざ、數世の間受嗣する状態と習慣とに依りて初めて見ると得べしとへば、老成の軍人の兒子と細工人の兒子と軍の訓練と學ぶに軍士の兒子が熟習せると必し、も細工人の兒子より速かからば是れに由て余のギヤルトン氏と同論を以て此章を終局せると得べし、即ち吾人自分の身の萌芽の最に吾人兩親の身體の萌芽より直ぐに萌生でまゝ此兩親の萌芽の其兩親の身體の萌芽より直に萌生で始終此順序に則れり是理あるがゆゑに吾人の性質に先祖の野蠻風と未だ免かるゝ能のを余今此事を解明さんとせばその法力千と以て數ふべし例は稚童が土と掘りて遊び戯むるゝと

と愛するの記憶し難き先祖の代より之れと遺傳へする感覺あり是れ即ち吾人の遠き先祖の蠻野するを以て已れが爪にて自分等の食料とせし草木の根と掘り取りするが故あり、鄭重に育られする兒童も如此に人間根元の習慣に反へると同じ譯にて座敷の内に育て揚げられする絹毛のスパニエル(狹の一種)の路傍の塵埃中に遊び戯むれんがために其主人ある貴婦人の撫で愛するも願むその腕中より飛び去るの即ち遺傳しする感覺の自から現はるゝ所のものなり

第三十章 病癩の遺傳

余が説論し殘しするもの、恐らくの遺傳中の最も緊要なる部分にして病癩の遺傳又の病癩に罹りする質これあり○當今人の命の恐るべき敵とせる肺病の該病に罹りする諸人の中に遺傳の効驗とせる者最も多し實ある哉最も有名き醫師の或る人等の該病に決して遺傳よ

外に起るべき原因ありしと信用せし肝臓の病咽喉の病過度なる肥満、
 皮膚の病喘息脳髓及び心經の攪亂痛風癩麻質斯及び癌腫の如き皆
 遺傳病あり且又少しの疵傷より屢止の難き程に澤山出血る質のその
 血統に属する者多しとそ○病態の遺傳も亦男女の性に因て感力と爲
 せしものと故に或る親の偏にその病と自分と同性の兒子に遺傳へり
 又或る親の偏に自分に反對しる性の兒子に遺傳と是に由てラムボ
 ルト家固有の皮膚に角の如き突出の父親よりその男兒と男孫のみに
 遺傳へり之れに等しく或る母親の數代の間女兒のみに指の過數と色
 盲と及びに他の不具と疾病と遺傳へり一般規則て兩親の各自その生
 涯中に得ざる或る病の自分と異ありする性の兒子よりその寧ろ同性の
 兒子に遺傳さがるものとそ去りながら才智の遺傳に關ては明かに之
 れと反對せりと云ふとの余が既に説論しる所あり

第三十一章

疵傷又の疵病の爲めに出來ざる不具の遺傳とる
 や否る乎

兩親の中孰れう生涯の中に得たる疵傷又の病癩よりして起りたる不
 具の遺傳に關ては如何と問ふ人あるべし去れば或る例に於ては該變
 態は數世の間之れと現行ふれども遺傳の効驗の少しも之れをかりし
 然べ即ち種々の人種その上齒と擲き抜き或る脂の關節と切斷し或る
 耳や鼻の穴に犬いある孔と穿ち或るその體に所々深き孔と鑿れるあ
 り然ども此等の變態の子孫に之れと遺傳さるとありと思惟るに理由
 かしコムプレナコスと稱ふる氣味悪き奇怪しげある男女の結社第十七
 百紀中に在りたりしが該者等が職業の人の子女と買ひ取りて之れと
 怪異しき人の形に造くるとありブイスト、ヒューゴ、氏が輓近に著せ
 る書冊の中に該者等が如何ある仕方と以て人間の面と取て天狗の如

鼻と造り或の成長と曲縮め或の顔と壓搾して奇面と作る杯尊さ人の身と造り變て貴族人の慰みと買んが爲に奇代ある玩弄物とせりと云ふとと繪圖と加へて説き示せし然るに此の不具と遺傳しよるとの歴史の上に於て未だ見ざる所にして之れよりして怪異ある人物と生じたるを決してこれをし茲又痘痕の不朽の功と建しせんナー氏の慈惠の發明以前に數世の間代々該病の爲めに必き痘痕と生じよると疑ひあしと雖も未だ嘗て痘痕と遺傳するを聞かざれば又合膿疹の殘しよる癍痕と以て生れ出よる兒子の未だ胎内に在る中にその母親の體と經て痘痕に罹りよるものにして遺傳にあらざり今一方に人間以下の動物にして猫犬馬の類の殊更と損傷られよると以て該部分丈けの等しき形ちと有つ所の兒と産めり茲に又或る男子右手の小指と殆ど切斷しよるが故に該指屈曲りて生長せり然るに彼が男兒同じ手

に等しく屈曲りよる小指と以て産れよる有名なる物性學者醫學博士ブラウン、セックワード氏左の事情と顯せり同氏手づからギニヤ種の豚に人造と發作と起さしめよると以て該豚の兒の數多しその親より癩癩の質と遺傳へり而して此の手術に掛けられざる親より生れよる數多のギニヤ豚の該病に罹るとあしと依て爲めに病ひと起生と程の人造の損傷と變態の儘遺傳せよるとあると云ふ説の許諾せよると得ざる所ありとい雖も生來の不具の數例の例は兎唇のとき假令その父親に之れありとも遺傳に歸し難し是即ち兒子が未だ胎内に在る中にその母親の精心に受けよる感に因て斯く其兒に變易と生れればあり然し此の條件の余後章に説明せあらん

第三十三章

後日に於て現よる、遺傳の成果
 生來にして現よる、遺傳病の外に茲に又親の一生涯の中或る時限に

於て發しざる病のその子女に於ても全く同じ年齢に迫るまで發せると豫預する遺傳病あり例へば余が前章に顯しざるランボルト家の皮膚に生じる針の如き息肉の父子共に同亥年齢(即ち産れて後大約九周日)に至て生長つとと始めり或る非常に毛の多き親族に於て三代の間該親族の兒子の毛にて庇れざる耳と以て産れり而して父親の六歳にして其身に毛の生長つとと始めりその娘のそれより少し早く即ち一歳に満する時に始めり而して又此の二代共に乳齒が晩年に至りて萌生し眞の齒の一生萌ざりし或る親族の非常に年若くして白髪とあると遺傳す而して過早兀頭とあるも亦遺傳ありとす

第三十三章

如何して遺傳の質と避くべき手

凡そ子女する者其両親より病痾の質と受ると雖ども未だ判然其病に罹らざる時りの該病症の或る時期と經過する後に於て初めて發せざる

ものに於ての其患と豫防甚しきに至らざるやうにさせるも屢これありと云へるとの自りら實際上の思考するると知らしむ故に例へば肺病の遺傳質の大約成年の頃乎又のそれより晩き年齢に至るまでの體の中に睡り居て發せるとおし是に由て肉類と多量にして適宜に規則と立て食事と爲し野原に出て規則正しく運動せると余が前篇に勸めざる長さ呼吸の習用衣服と温かにして快寛と着あそと若まゝ相成るからば年中天氣の變換易き時節及らびに寒暑の厳しき季節に同一様ある氣候の所に居住せると以て該病の開發と全く抑止むると得ると屢之れあり如此き豫防の病の既に發し現はれざる時に及んで治療と加ふるに勝るのみからせ之れに因て該病と避得ると多し一旦該病の發しざる人のデーント氏の所謂地獄に墮ち入りたる人の如く之れより免うるゝとの望みの全く打ち捨てざるを得ざるの屢も又屢も

れバ讀者預防の語と必を輕々しく考ふるべし。若し誰人にて或る病に罹るべき遺傳の質と有てりと信るべき理由と見認むる時の患者の身質と盡見窮め且へ質問しる上にて將に發せんとする煩悶と避けしめんがために最も適當ある預防法と此の人に授け獎むるとい醫師する者の義務ありとそ就中て或る重大ある遺傳病が親の身と繋さるとあればその兒子が同じ年比に至れば能く注意して遣せべし加之此の看護の右の兒子が壯年の頃ほひまでも怠るべうらさ如何とあれば年長けて遺傳病の發しる例と記録に載られざるが故あり然れば即ち祖父父親及びにその男兒共皆五十歳近くして狂氣と發し自殺せし例あり夫れ痛風卒中狂癲慢性心臟病癩癩肺病喘息その他の病の總て多少預防法の配下に屬そ然るに痲呆及らびに癌腫の如き或る遺傳病に至りては吾人の學識今日の情態にて之れを防ぐと能きは茲

に又病の遺傳に付て奇異しき事實ありその或る一代のそれに罹らばして容易く過了てその次の代に及んで現れ發することあり故に肺病統の父母及び時としての其兒子等も健全ありと雖もその孫の該病に因りて死するとあるべし如此造化の心切と以て一代の惠と加ふると雖も必きその次の代と以て之れと償はしむ〇病に依りて尋常一般の預防法とする攝生法と確く守るとの外に特別ある方便と用ひて預防せざんべあらざかるに此の書は自から限りありてこれ等の事伴と一々説論すると許さざるのみあらざ實に余が既に説述する遺傳の評論の恐らくの不當に擴張めざるをらん去あがら該事實の實益と緊要のとざるがゆゑに余が長談と正當とせざんべあらざ

第三十四章 何故に婦人の數の男子に比ぶれば過多ある乎
 現今世界中に享生る所の男女の數の比例と穿鑿するの實益あしと爲

し難し且又その數に於て一方の性の何故に他の性より多き乎の理由
 と考究するの尙更吾人に實益と與ふべし先づ此の事と論じ次に男女の
 性の少しありとも人意の感力にて造くり別ると能ふや否乎の問題に
 對して余答ふるとあらんとす○信憑ある統計に因るに世界の中心總て
 人口稠密に住する場所に於ては常に女性の數の男性の數より多し即
 ち英國 英吉利 及らびに ウエール 及び オーストラリア イギリス 及び
 あり 瑞典 にては男子百人に女子百九人の比例とを該不平均の郡村よ
 り都府に於て尙大なり例は 倫敦 にては男子の百人毎に百十三人の女
 子あり 瑞典 の大なる都府に於ては百に百十六の比例あり○然るに新
 に植民しする地方の此例に同じからず又輓近に植民して未だ人口
 の此所彼所に散在しする場所に於ては右の比例の反對あり例は 我米
國西部 の州々にては男子の數の女子の數に勝れり カリフォルニア 州に

ては女子一人に男子三人の比例とを ブッダ 州にては女子一人に男子
 八人の比例あり コロラド 州にては女子一人毎に男子の數二十人あ
 り輓近の合衆國人口調査に因れば イリノイ 州に於ては男子の數女
 子に勝ると九萬三千人あり之れに反りて マサチューセツツ 州に於ては男
 子より女子の數多きと五萬乃至六萬の間ありとを○新に拓けざる國
 に於ては男子の數女子の數より多き元來婦人たるものゝ移住する
 こと好まざるが故あり且又婦人の開拓生涯の苦困に適當せざるもの
 あり○如此に世界全局にては女子の數男子より過多あるの如何ある原
 因ある乎然るに世の父母男兒より女兒と多く産生ものあるを否少しも
 如此ある理をなし輓近に調査ありし産兒の統計表に五千八萬人以上の
 内女兒百人毎に男兒百六人の比例するると見認せり例は 米國 ロード
アイラント 州に於て千八百五十三年より千八百五十五年に迫るまで

三ヶ年の間にうまれざる男女の比例の女児一千人にさいして男児一
 千六十四人ありと然るに造化の法則のとどろくべきものにして稚
 童の稚女に比ぶれば出産の後一年のうちはその生命とらしふこと
 おほし第二年度に於ての初年に比ぶれば稍少しと雖も猶男子の死を
 ると遙くに女子より多し第三年度より男児の死をると逐次に減少
 して第四五歳に至れば死亡ると男女両性その數殆んど均一ありそれ
 より後拾五歳乃至四十歳までの間の死亡るとの數の婦人の方に稍大
 ありと雖も未だ男女の數と平均するに至らば加之あらば男児の天死
 しやとさとの出産以前に於ても之れあり即ち死兒と出産中に男児の
 數の女児より多きものあり其比例の二に三ありと是れに由て或る
 著述者の男子に付與へられざる剛性の稱詞の誤稱ありとせりそれ男
 兒の幼き時に於ての性理上にて女児より脆弱く且一層邪害に感け易

きものとし〇如此に男児の産れるの女児の産れるよりその數多きな
 るに世界中に現當享生る所の男女と比較されば女子の數男子に勝る
 ど云ふとと指示しざるが故に今暫く男女両性の數と定むるところの
 造化の律と思惟んとそ余看官の退屈せんとと恐るゝがゆゑに數字と
 用ふるを避けて數年數國に涉りざる數多の經驗にて得られざる結局
 と短簡に説述んとそ夫れ兩親の年齢の差違の兒子の性(男女)に特別を
 る感勢と有つものとし然れば父方の年齢母親より長されば男児と産
 むと多し又兩親の年齢均しき時の男児より寧ろ女児と産むと多し若
 又母方の年齢長むる時の女児と産むと男児より多し此説するや前に
 説さざる如く文明諸國に於ての女児より多く男児と産むと云へる事
 實と符合を如何とあれば社會の風儀にて夫婦の一般に其妻より年長
 さればあり此の法則に符合しざる奇ろき一の例あり其は輒近余が自

分經驗せし所にして或る再嫁の婦あるがその年齢夫より十年長せり
 該婦今の夫によりて二人の兒子と産ちしが兩人あがら女子あり然る
 に彼れが以前の夫の彼れよりその齡十年長せり而して該夫によりて
 四人の兒子と産ちしがその中三人の男子にして第四番目の子の雙子
 にて一人の女子一人の男子あり○然りながら夫婦年齢の比較のみに
 て兒子の性(男女)と識別するの甚だ難し時として此の年齢の働に打勝
 べき勢力の抵抗あり例バノールウェーの或る地方に於ては不斷男兒の
 不足と生せしとあり然るに他の地方にては之れと反對の尙ありし大
 戦争耶又時として疫病のさめに男子の非常に死しる後に於ては
 男子の産るゝと通常より多きと能く世人の知る所ありまは椅座で
 強き勞力と爲さるる男子殊に大にその精神と疲勞する學士女子と
 生むと多し又男子の方甚だ年老るとさるその兒子中に女子の數多

しと茲に又両親の年齢の比較の外に食物の分量及びに其質住居の
 高低温度の情態活計の仕法位地の高下宗教と信ぜるとの度情交の度
 數の總て皆男女の性に不平均と提起その原因ありとせられり○或
 る著述家の南風滋く温にして濕とる年の女兒と生ぜると最も多く
 寒くして乾きとる年に男兒と生ぜると多きものとと元來此の説た
 るや人間に就て信ぜべき統計によりて立られざるにあらざと雖も家
 畜に就ては佛國農學者の久しく經驗せし所にして季節の動物の性(牝
 牡)に大なる關係も有つものどと即ち牛馬羊等の天氣乾きて寒く且北
 風の吹く時節に反對の天氣の流行る時より壯兒と生むと多し○
 是れは男兒年是れは娘年ありと云へり乳母社會の語の或る年に於て
 其他の年より男兒と産出ると女兒より多しと誤想するに基けり○
 何れも免れられ此の條件に就て最も吾々に關係と爲すもの左の問題

ありとを

第三十五章

男女の性は随意に造り得らるる手

此の問題なるや數百年前に起されたる難問の一にして全く輓近に至るまではその儘にして満足ある答へあかりしが結局術學の力にて確証と以て之れが答辨と爲せり。ゼニアの術學大學校の教師エム、ソール氏、吾人の欲する所に從て男女と造くる理由と顯せり。〇世上に於て或る親族の男兒と得んが爲めに至極心と艱ませり。或る親族の熱心く希望して女兒と得んと願へり而して又一國の人口に於て男女の比例と制限とをこの國政論にも關つると屢之れあらん。諸家に咨嗟の處女亦く野に戰士の不足なきとユートーピア國英人モーター氏の想像と以て作れる海島の名にして該所に法律その他人間萬事満足爲さるるの情態と提起その人間境界の満足と謀るとの中に

最心底より企望すべきとからん哉。夫故に該説論の緊要にして棄べからざるものあり。〇彼の雌蟹の先に雌卵と産み而る後に雄卵と産むと之常とを牝鶏に於ても之れと等しく最初に産まざる卵子の雌に孵り最後に産れざる卵子の雄とある牝馬の發情時限の終際に牝馬と接はるときに牝兒より産る牡兒と産むものと。そ大學教師ソール氏の此の實事及びにその他之れに等しき事實と思惟して家畜牧師の爲めに左の規則と造れり。汝若し牝と生ませると欲ふからば情熱の初めて現れざるに牡と接へよ。若し牡と欲とあらば情熱の終際に於て牡と接へよ。と去りながら物事に論理と設くるとの易容とあるが故に從來該規則の現實と符合しざるや否乎と證にせん。諸余の我座右に千八百六十七年二月記のノイツランド國の或る家畜牧師の證書と所有り蓋し此人のキヤントン、ダブライトのノイツランド農學社の社長

息子あり其文に曰く余先づ第一に二十二次接續して特種牛と得んと欲へり蓋し我が牝牛のヌナナルツ種にして牝牛の純粹のダルム種ありし而して該例に於ては余が目的と成功せりその後余純粹のダルム種の牝牛一頭を買得しとて以て余が嘗に大金を出して買得めたる牝牛の代りを得る爲めに新に一頭の牝牛を生ましむると甚だ緊要あり是れに由て余の大學教師ソーレー氏の教示に従ひしに果して該目的と違ふると以て該法律の眞正あると重ねて證り且又耕事に使役んが爲めに余が所有のダルム牝牛より六頭の牝牛(ヌナナルツとダルムの雜子)と得たり而して同じ毛色と同じ高さの牝牛を撰びて之れと交接らせると以て全く耦したる鬪牛を得たり然り而して余が所有の群の牝牛四十頭に追ひその年齢の各牛異あり〇約言へば該新しき法に因りて以上二十九の試験と爲せしが各回に牝牛中余が企望する所のもの

のと生ましむることと成功して唯一回も仕損せしともし該の試験の盡く余が自身ら施して少しも他人の差圖を借らざるが故に余の大學教師ソーレー氏の法方の眞正満足あるものと思考するありと公告をあり〇千八百六十八年三月二日の費府の内外科醫學報知(雜誌の名)に充分信任をべき經驗者の右に等しき試験と蓄類に行ひしに同様の成果を得しことと記載せり〇エムソーレー氏の法方の佛帝三世那烈翁の農園にても試みられざるに最も確かなる成功を得たりと主張れり〇諸今該法律と人種に施用ふるとき其成果の如何あるもの乎と問ふに米國ウイムボーンウィムボーンの醫學博士エフジニエフジニダアルユーバクマン氏ダアルユーバクマン氏のランセット新聞に左の説と掲り婦人月經の循環る中間の初めの半期に孕む時の女兒と産む而して終の半期に孕胎とあるとき男兒と産む然るに若し分娩の時日婦人の算用通りよと越えるとき其子の

大概男兒として産るべし〇千八百六十八年二月八日の費府内外科
 學報知に尊敬すべき醫師已れが経験しざる數例に於て大學教師ソ
 レー氏が理論の正真きと證據立りと云ふと書けり氏曰く「月經の
 流り歇む後二日より六日の中に情交を爲しざる時に何時にても孕
 みざる兒の女子あり而して月經歇みざるより九日目よる十二日の中
 に情交を行ふて造成さる子の男あり各例毎に余その母の孕みざる時
 日のみあらざ尙又月經の歇みざる時期月經歇みて後初めて的情交及
 び其後一ヶ月の中又の一月以上の間に行れざる情交の時日等に至る
 まで詳りに極めふり〇復或る醫師の千八百六十八年六月二日の同じ
 雜誌に自身の經驗の效驗と記載せり〇ルイジヤナ州の某農人のタル
 フフヒールド、エンド、フアーム新聞(農業新聞)に左の事情と記載してソレ
 ー氏の法律に左祖と爲り余從來既に數多の例に於て未だ産れ出ざる

兒子の性(男女)と確實に占考てると得たり去バ余が友人の中にて三
 十回以上余その兒子の性と未だ産れ出ざる以前に預言へり而してそ
 の産れ出づるに及んで殆んど毎回余が辭の眞正しきと證據立り〇是
 れに由てセーキスピーヤー氏の作れる演戲の中にマシベスが企望み
 たる如く男兒のみと産んと欲ふ妻女の月經の歇みてのち七八日過ぬ
 その時間には孕胎とあるとにその身と暴を杯のたと用捨せざんばあ
 るべりら〇當今に於て伶俐熟練の醫者の未だ産れ出ざる以前に兒
 子の性と預言當るとと殆ど確に爲し能ふるあり然し之れと預言ふと
 の法方の妊娠に付ての論說の中に顯とあらん

第三十六章 双子女

五一一 規則としての婦人一時に一人の兒子を産むものありと若し双子女と
 産むとき世人多くの之れと異なるとせざ夫れ双子女の性理及び心腦

共に不足とあり易しと世間之れと評せり然るに此の説するやその理由あきにもあらざ即ち該の條件に付て注意する術學の調査に因れば心腦と體の虛弱及らびに痴呆人の中その甚だ大いある數の現に平常の人から見れば雙生子の中に見らるると云ふとと顯せり而して雙子の産るると多き親族にては等しく體の不具と生ぜると屢之れあり又心腦と體の虛弱及らびに痴呆の親族中に雙子と産むと平常ありと事實ある哉雙生の全史の尋常に外づれざるものにして該産兒のその成長充分あらざ機關の組方も自りら脆弱あるとと現を而して人種の雙生子あるもの物性の法則に乖離すると吾人に知らしむるがもるに萬事に對して有害あり去れば生れながらにして腦漿あき怪しき人物の雙生子の外に之れあると稀あり○雙子の産るの大約平常の産の八十度一度ありと婦人一回に一人以上の兒子と生むとよりの全

く子女と有さざる方と多しとを而して雙生産の母子共に危難を増加するを見れば複産の稀あると幸ひと云ふべし

第三十七章

雙子の産る原因の胡爲ものを

此の不規則ある妊娠と提連を原因或の之れと賛成を事情の如何あせされべ之れも等しく造化の法律の動きに因て出來るが故ありと問ふ人あるべし是れ素より偶然の事にあらざ夫れ造化に偶然の事あると或し某人の之れその母親に基けりと想像を又某人の父親に原くありと想像へり然れども該の而説の孰れにも荷擔すべき事實あし某婦人の逐次に數多の男子に嫁りして常に雙子と産めり然るに彼等が夫としさる男子の他の妻女との毎回單子と生めり茲に又或る男子の右の婦人に等しき情態を現はせり今此の事の例と揚ぐるに千七百五十五年に於て魯細亞の皇后に面謁させられさる田舎男子の例より

尙驚くべき例の稀あるべし該男子の前後二人の妻女と聚りしが第一の妻女の産を爲すと二十一回にして五十七人の兒子と産り第二の妻女の十三産と以て三十三人の兒子と産めり彼等の産を爲す回毎に四子三子又の双子を産出せり爰に余が経験しうる一の例あり該の例に付て考惟るに双生産のその原因の母の體質に基くが如し即ち該妻女の前後九人の兒子と持しが第一の産の單子にして女子ありその他の總て双子にして男子ありし〇複妊娠の年によりて多少ありと云へる説ありと雖も双子と生るるに最も大なる實際の感勢と現れと思考らるるものゝ母親の年齢是あり甚と手摺き統計の指示所によれば婦人双子と孕むとの一生涯孕胎期限の初發より四十歳に達する迄漸次に増長を二十歳より三十歳に迫る間にの双子と有つ妻女のあるの最も僅少にして双子と産む婦人のその年齢平均して尋常の妊娠とせる

間の年齢より長せり倍又双子の數と比較ぶるに年長なる婦人より産るもの遙に多ことゝ世人の能く知れるところあり總て子女の出産と比較ぶるにその五分の三の三十歳以下の婦人あり而して又双子の全數の五分の三の其齡三十歳以上の婦人より産れり婦人初めて嫁する時にその齡長ざれば長ざるだけ初産に双子と有ち易きと多し十五歳乃至十九歳の若き妻女の双子と有つと百八十九人に僅か一人なりとそ三十五歳乃至三十九歳の妻女に於ての四十五人に一人の比較ありとそ今之れを詳かに言へば最も若くして嫁りしうる妻女の雙子と有つと最も少し而して四十歳に達するまでの年齢の長ざるに従て雙子と孕み易し〇又人種によりて複産の多少あるが如し去れば英人と愛人と孰れか雙産の多きと比較すれば愛人の方複産とせると尙屢ありとそ

第三十八章 親族の大小に雙子産の感勢

雙兒と産む婦人の一回に唯一人の兒子と産む婦人より到底大いある親族と有つ歟世上の信用する所の此問題と賛成する答へとならば如何ある答へ確定する左の事實と以ても賛成らるゝが如し即ち雙子の初産又の小親族に増加するより寧ろ既に大なる親族に加ると多し然りながら統計の猶未と當然と以て該の疑問に答へと爲さざれば雖も統計も亦雙子と産む婦人のその隣の人より大なる親族と有つと云へる想像と賛成くるが如し〇婦人の雙子と産むの初産に於てあり易しと雖も概へて第二番目の分娩より後の妊娠の度數が重なるに従て雙子と産むと増加と是れに由て雙子産の遇數親族の徴にして慘み哭くべきとなり

第三十九章 一産に二人以上の兒子と産む事

一産に二人以上の兒子と産むとの例の雙子産に比ぶれば尙少しとて該例するや三十歳と越えざる婦人にあらざれば嘗て出逢ふと稀あり如此ある例の總て母子共に多りれ少し不幸と受けり

第四十章 一産に三子と産む事

三子の出産の必せしも三十歳以上の婦人に限らざると雖も三十歳より若き婦人にして三子と産むの大珍奇ありと稱るゝ程に至極稀あり偕又三子産の雙子産のとく初産に起り易しとせざ該の点に於て余が既に説き去りたる雙子産に異なり巴里斯の産科病院にて或る年月の中に起りたる三萬六千の分娩の中に三子産の例の唯四ありと云倫敦の公立産病院に於ての四萬八千の分娩の中に三子産の僅かに三ありホーラチアイと稱れざる彼の三人兄弟の羅馬人の三子ありと云ふとの歴史に見えり偕該の三人の紀元前六百六十七年に於て等しく三子

あるアルバーのキユーリアチアイと稱れざる三人と戦争て之れに打
 勝り〇三子の條件に就て面白き事實あると以て余左の事情と顯さん
 聖彼得堡の産婆院に千八百四十五年より全じく五十九年に迄るまで
 の間に某る三人の婦人入院と許されりしが彼等の三人どもに第十
 五番目の分娩に於て各三回接續て三子と産めり然るに幸ひあること
 尋常の婦人十五番目の妊娠とあそひ甚ぶ稀あり

第四十一章 一産に四子と産む事

四子の例あるや三子よりも尙僅かありと雖も一産に四人の強壯ある
 兒子の産れざる例あり

第四十二章 一産に五子と産む事

一産に五人の活きざる兒子と産むとの規則外の甚ぶしきものにして
 大概の其兒子の生命危きものと此の類の著しき例と晩近の某醫學

雑誌に報告られり之れの日佛人の妻女にして六人の兒子の母あり
 彼れ三十歳の時妊娠とありて凡そ第七个月目に分娩せしに五人の活
 きざる兒子と産めり此の中三人の男子にして二人の女子あり然るに
 此の中四人の生れて一時間ばかり享生て逐次て死せり第五番目の兒
 は女子にして最後に産れ六時間享生り而してその體格の小さかれ
 共享生ふべしと企望れざるが程に強壯ありし〇近時佛蘭西の某る醫
 學雑誌に五子産の例と報告り此の婦人の年齢の四十歳あり彼れ此の
 時までに一度雙子と産み五度單子と産めり彼第七番目の妊娠に際て
 五个月と経過しる時にその腹の太さと平常婦人の臨月のとくに大
 いかり而して此の月の末に五人の兒子と産み出せり該五人共皆活
 て産れ四分時より七分時の間活へり偕又該の五人共皆男子にて體格
 能く而して單子産に於て通常の五月半の胎兒の如く成長して居れり

又該の婦人の産後全快して少も異りたるとありし此他に一産に五子と産みたる例の引證せらるると雖も元來一産五子の例の醫學上に知らるると甚だ珍らしく而して記録に載るに足るべき珍事あり

第四十三章 信用爲し難き數子の産

或る書冊に一産に七人八人九人十人而して尙以上の兒子に付て説くと雖もその説の信用を置くに足らざるが如くに怪異して信じ難く且適當なる證據を以て賛成られど如此に段々に數を増せる法外ある率合の説のゴフターと稱れざる著述者その高度に達せり彼の話したるや第十七百年代の人の妄信なるとの良き解明と與へり去れば該の遍歴人ゴフター(千六百三十年に於てハイグより大約五英里我凡二里距離をローヌツナーナムと云ふ所の某寺院にて左の事情を記しする記録と見れり)某名高き諸侯の夫人ゴフター氏その姓名を記せり)千二

百七十六年に於てその年齢四十歳にして一産に三百六十五人の兒子と産めり此の兒子等の盡く僧正クワイドールと稱れざる僧により洗禮を受け此の中男兒のその名を皆ジョンと呼び女兒の皆エリザベスと稱けられり彼等皆その母親と同日に死て上に顯されざる寺院に葬れり儲該の怪異しき出産の右の夫人一日貧賤ある一の婦人がその懐に雙子を抱きて在ると見て之れを誹謗れる罪によりて爲れり」と云へり該の貧しき婦人彼の誹謗人が一産に一年の日數と同じ數のけ兒子と産むと神に祈れりこの話しするや該の寺の記録に證らるるにもせよ無學にしせ妄信人の時代に與へられざる數多妄迷の例の中に加ふべきの論を待たざるあり○余の此の論題を終るに臨んで後産の單子の妊娠に比ぶれば成熟すると少し而して如此ある妊娠の平常の妊娠に較ぶれば流産すると一層多しと評を下すべし

妊娠

第四十四章 妊娠女と尊み敬ふべき説

余これまで女子と處女及らびに妻女と見あして考慮より然るに今爰に至れば彼れ母親たる聖の門に近よれり彼れ兒子とその胎内に宿し而して婦人一生涯の中何れの時にても現今の時期の如く深遠しくして一般の實益の主たるをなし夫れ若き處女と新嫁女の間、嬌姚好氣及らびに艷容と以て人々に愛好れり今妊娠妻女とされば目前人の慈愛と教法上の尊敬と受くる的とを何れの時代何れの國に於ても妊娠女の如何程り著しき心切と大いある保護と受けたる乎と説述する無益にあらざれば彼れ從來公けの尊敬又時としての教法上の拜禮とも受くべき本體と爲れり是れに由て雅善及らびに加查細尼亞に於て人殺しの罪人も妊娠女の在る家に潛匿るゝ時の裁判の劍を免れり

猶太人の宗旨の故と以て禁じざる肉食も妊娠女に之れと許せり孟德斯鳩が立たる法律にの惡しき取扱又の粗暴ある業と以て婦人として墮胎せしむる所の人に對して死罪と布告せりライカルガの妊娠中に死しざる婦人と戰場に討死しざる勇士に準へて該女に與ふるに碑銘と以てせり往古の羅馬に於ての國民一統高官人の通行に出逢へば起立の禮と行はねばならぬに妻女たるものこの貴人と敬禮ふの表と行ふと免れり是れこの舉動と強て勉め且つ急ぎてなその婦人若し妊娠されば有害とあるが故ありパノノヤの王國に於ての妊娠女の左の敬禮と受くるあり男子途中にて妊娠女に行き逢ふときの後戻してその女の行く先まで彼れと護送らざれば罰金を贖はねばならぬあり又カソリック宗の何れの時代に於ても妊娠女だけの宗掟とせる斷食と免せり埃土人の婦人の死罪に當りたる時に若し妊娠の證據あれ

くなるものかれ其時としての暫時が間の劇しき止め難き窄張と引起
 ごとあり左の去りながら之れしも病と稱られ之れが爲めに婦人疲
 勞る程に至らざれば此の事さるや分娩の善良健全なる徴候として思
 考せんべあるべからざる不氣分なる妊娠の安全ありと云へる古き真正
 ある諺あり故に惡心若くの現り嘔吐とささの母子の身の上に危難
 の根原ありと去れば妊娠中常に該の症状と見ざる婦人の甚だ流産
 と爲し易し萬一此容體起るとさき時之れと起生とが爲めに熟練さ
 る醫者に依頼せざんべあらざる何如とされば該の症状の健全なる妊娠
 に幾程の緊要あればありこの故に朝病の妊娠の事情と伴ふて起ると
 甚だ普通に始んど毎に之れあらざるとさし而して妊娠の徴候あり
 として之れに信憑と置くも可きあり〇第三 乳房の變化の妊娠の症
 状として有價のものと婦人妊娠とれば乳房の漸次に膨脹して漸次に充

實あり而して爪にて締めり又の虫の刺とが如き感とこの部分に覺ゆ
 乳頭の膨脹れて突出で又時としての痛みと起るとあり皮膚下の靜脈
 の平常より一層發現としてその紫色と増濃と乳頭と環ふ薔薇花の色
 どりさる一種皮上の環のその幅漸次に増廣ありその色も平常より黒
 く變じ而して小丘の數と以て覆はる之れに續いて白色の圓き斑点該
 環の外部に自から散現はる〇右に述べさる乳部の變化の發現る時期
 の各人一樣からざる或の二三周にして開發るとあり或の屢第二三個月
 に至るまでの發せざる人あり又時として柔弱き體の婦人に於ては分
 娩に近づくまでの現はるゝとさし時々分娩の後に至るまで少しも乳
 房に變化と生ぜるとさし此の終りの例に於ては分娩後數日の間乳汁
 の出づるとと延引と或る珍らしき例に於ては何日往てども乳房の母
 乳の均合と爲さると以て該の母親の自分の子女に乳と哺ませる

樂しき義務とあそと能はせ○第四 右に次で余が考へんとする所の
 症状の發動あり此の辭さるや母親の妊娠して胎兒の動くこと以て始
 めて明りに胎内に兒子の現在と知る時期と指して用ひられざるあり
 往昔の人等この時に至て新體(兒子)にその生命と賦與へられたりと
 思考し然れども方今の物性學の證明に此の思考の誤説と咎めり去れ
 ば妊娠の最も夙き時期に於て未成胎兒の生活てとることの彼れ將來
 成立の何時に於ても活て在ると同じとあり此故に墮胎と爲す婦人の
 之と爲るとの發動の前後に關らる術學と天帝の目より見れば等しく
 罪ありと云ふと婦人各記憶ざるべからせ○然れ 即ち發動の如何
 して生るものある乎答へて曰く兒子の運動あると疑ひと容るべから
 せ夫れ胎兒の心經と筋力とが己れの手足と動くこと能る程に充分發
 達つや直や母親としてその身の情態と知覺らしむるに至る儲この運

動のその働き充分あらざれば知覺られせ時として胎兒の筋肉の伸
 縮が充分強うらざるが故にその母親として少しも感覺しめざると之
 れあり如此に胎兒の運動が幽弱にして母親の身に感覺るとできざる
 數多の例に於ても熟練する産科師の之れと詳に知ると能るあり而し
 て胎兒の運動と起るに醫者の詳知したる種々の仕方あり○發動の
 時期の該の容體の妊娠の大約中央即ち第十八周日に近うづきさる時に
 起ると通例ありとそ去りあがら或る婦人の妊娠の第三月目にして早
 くも胎兒の運動と感ぜるとあり他の婦人の第六月に至る迄の之れと
 感ぜるとあし茲に又第八月或の九月加之らせ始終何なる運動も感ぜ
 られざる所の例あるとあり如此に運動かせして己れが現在と示さ
 る胎兒の好情も好情動くこと欲せざる好情と異稱せられざるラウレ
 ャスと云へる人の異類ありと云へる説あり確かある哉男女共多の人

産て後休息と好情け愛るとと顯せると以て彼等未だ胎内に享至る間にも等しく自動くととあさしありと容易く想像やると得べし
 ○左の去りながら發動の徴證あさの稚兒の虚弱又子宮の壁膜に感乏の缺乏かに因れり○或る婦人に於ては自分の胎兒の運動ありと思へる感じの左にあらざして腸中に瓦斯の醸と恐らく又水腫の萌に原く時に自から欺むかれて之れと胎兒の發動あるありと想像ふとあり此の事に付て自から欺かれざる數多の例の中に有名なる歴史家ヒューム氏左の事情と著せり英國の女帝メーリーの兒子と産んとと非常に欲ふ折から彼れ胎兒の運動と感せりとして公布せしまでに自から信じてそのとと執言れり是れに由て外國の朝廷に公報を通し國中の一統に之れと祝し男女の性まで預定られさり如何とあれ誰人も此兒の皇子に誕生ましまさざらんと確く信ざればあり而して論

教府の僧正ボヌナー氏の天帝に對ひ該の皇子として艶美しく強壯にして且上伶俐あらしめ賜へと祈りつゝ公けの祈禱とあせり然るに此等の企望と一同熱心ありて待設けざる誕生の幾日経れども決して現實とあらざして水沫とあれり而して該の想像の發動の偏に全く不健康の爲そ所にして水腫の萌したると將來に至て始めて明かありし○或る婦人の腹部の筋肉と隨意に伸縮するとと以て胎兒の動く似真とそる力と有つ能く人の知りざるチャールストンの黒女アアント、ベチーの十五年の間妊娠して居りざりと大評判と受けざり該婢の此の事と珍奇がりし醫師及びに醫學生徒に胎兒の動く偽真と爲て見せるとに因て大金と奪ひざり而して該婢幾回も同府の醫學者の面前に出でざりその後彼れ死し、後にて解剖すると見るに少しも妊娠しざる徴候之れあさと見顯されり該婢の自身の筋肉と隨意に震動ととと得るが

故に親しく胎兒の運動と眞似して好事の人より金と出させざるあり
 ○第五 腹部の變化 妊娠して最初二月の間の平常に比ぶれば却
 て小さし即ち退縮みて平らある形容と現る臍も亦引込んで凹める
 り大約第三月目に至れば下腹の自から膨脹ると多し而して後再び小
 さくあると以て婦人自分の情態(妊娠)に於て誤れざるかと思ふとあり
 その譯の彼れ第三月目より四月目に至てその腹は小さくあると
 見るゆゑあり去りながら此の時期と経過せば腹部の太りと硬さとと
 漸次に加増せ尙一層有價とせる所のもの膨脹の一種の形ちなり倍
 その形の梨子の如くにして水腫その他の病にて膨脹するものと區別
 するべし又臍の突出るとと始め而して終りに緩み垂るに至る今此の
 時に臍の伸出でる形状と以て妊娠の屹度しるる徴候ありと○序
 に云ふ子女あき妻女の常く妊娠と望むゆゑ壯年より老年に變遷る

時に於て腹部の肉付と見て從來のこれが望今將に満足せんとと點
 認くと屢之れありまかし此の生活力の變化する時に際て脂肪の積
 置よとして腹部の膨脹と引起しその上自然と起る心經の攪亂と月經
 の滯止と以ていよく妊娠せりと思ふべけれども抑婦人この年齢に
 ありての生殖の時日の既に過去れりそかはち該の徴症の人生の冬季
 の近寄りと明示するものにして之れとともに生殖機の死亡と持ち來
 るものとも○第六 皮膚の變化 夫れ皮膚に起るところの變化の注
 目るにその益あしとせむ顔色柔嫩くして生來蒼白き婦人が妊娠にあ
 れば色澤を増し而して之れと反對の顔色の婦妻の等しく反對の形状
 と例はを某例に於ての男子にして鬚の生る部分に著るしく毛の萌生
 るとあり此毛の分娩の後に至れば自から消失してその後復妊娠の毎回
 に再び萌生り或は又皮膚施緩みて襴積と造らへ顔面に憔悴する老年

の風態と與へて美しき容色と損ふと多し。諸又平常に皮膚より蒸發し易き婦人が妊娠すれば乾燥して粗麤き皮膚とあるまゝ稟生皮膚に濕ひあき婦人の此時に際して蒸發すると多し而して該の蒸發氣の一種持別の烈しき臭氣と帶べり又時とそれば銅色又の黄色の疥癬と發せ黒子の漸次にその色と黒らし且又その太さと増し而して眼下に黒き環を生じ如此に全體の容貌が變化るとその例少しとせ今一方に向ての時とそれば頑固して久しく存在せる皮膚の病の妊娠中に退去て多くの再び發せるとあし右に説きざる種々の變化の婦人毎に起るにあらせ又同じ婦人にして妊娠の度毎に起るにもあらせ○第七 今茲に左程緊要からせ左程毎常からざる徴候の數と取り約て掲ぐべしその即ち食物の味惡しきと異常ある食物と欲しがる口の中に津液と過度に醸せと胸の熱けると最初二三个月の間食物をたませその後非

常に食と貧りて時として婦人として食を爲めに夜間寢所より起るに至らしむ齒痛催眠下痢心臓の激動右脇の痛等あり若し此等の症狀單一起るときの妊娠の徴候とせるとたゞ該の中食物の味惡しきと他の徴候に比ぶれば最も大切なるものにして充分徴と爲らるべし故に婚姻しざる婦人その健康に異りせるとかくして遽然に白墨木炭石盤筆その他異常の食品と病氣らしく欲き好む感と覺ゆる時大方の妊娠の確りある證據と爲らるべし○此容體の數例の内孰れか又の盡くが月經の滯止朝病乳房の變化及らびに上に掲げざる他の徴候と伴ひ起る時に妻女たる人自身の妊娠せりと云ふとと充分確定とせべし○第八 精心の變化 妊娠に付屬ふ諸の變化の中にて最も驚くべきもの心經體の變化あり婦人妊娠すれば一層物事に感動し易く彼の特質も平常と異なり而して平日愉快信任柔和快謔し

る意氣も變じて忽急癩癩嫉妬辛苦しき心と現のそ然るに生得意氣恐
 しく癩症有ちの婦人の妊娠それ平日と異りて意氣の改良あるとわ
 りて之れが爲めに家内中從來の經驗と以て母親の妊娠の雲霧晴れ雨
 風止て日暉閑靜あるの時限ありとして欣然で之と祝ふに至る者又或
 る稀ある例に於ては婦人妊娠それ思想の力と増し且之れと高上に
 し及らびに智力と増殖とあり〇原來此の書の婦女子の爲めのみ著
 はせるがゆゑに獨り醫學者の詳知して常人に判然難き妊娠の或る容
 體と徴候の顯とことと爲せと雖も余が既に顯しするものゝ外に醫師
 に取りては至極大也ある數多の徴候ありと云ふとだけと迷ん例へば
 該の徴候の一とそる胎兒の心臓の音の耳おれたる人の大約第五月目
 に之れと知り極むると得る(妊娠の明らか)に確實ある徴候あり

第四十六章 流産

流産の妻女の身に取りて病氣と醸し易く而して生命と危険くその
 原因とあること往々之れあり加之からせこれ人間の生命の冗費に
 して未だ産出ざる子女年々之れが爲めに死るもの千と以て數ふるに
 至れり〇流産の數多 流産の決して稀に起るものあらば統計表に因れ
 ば母親百人毎に三十七人の未だ齡三十歳に滿せしめて流産と爲せり
 然りなりら該の凶事の婦人一生涯兒子と孕む時限と折半にして初め
 の半期よりの終りの半期の間に多くなり起り易し是れに由て年取りて
 生殖機の枯れるまで兒子と孕むとと續く婦人百人の中九十人の流産
 するものとせられたり〇母親の年齢の感勢 婦人四十歳にして婚姻
 それ甚だ大いに流産し易し然るに彼れ若し三十歳にして婚姻せし
 たらば假令四十と起るも兒子と産むとあるべし婦人その生涯の中
 兒と孕む時限の終りに近づくとさき多分の未熟産と以て孕胎の生涯

と終るべし夫れ最後の妊娠の最も普く成功爲さるのみならず尙ま
 さらその子女の痴呆とあるとありと云ふ説の信憑とすべき理由なきに
 わらざる故この論端に於て才人の初産の子女にあると多しと云ふと
 と執言たる論者あり然るに亦最初の妊娠の最後の妊娠と除き他の妊
 娠より一際流産に罹り易し且又婦人非常に倦憊さ乎或は多血あるか
 それバ初産の特に流産し易し○妊娠の時期の感勢 流産の妊娠中の
 初期に最も之れあると多し即ち最初の月より第三月目迄の間に起り
 易し亦大約第六月目頃にも甚ぶ起り易し諸亦流産の自りら癖習もの
 にして屢之に出逢ふる婦人の妊娠中その時が來れば殆んど毎回到
 流産するものなり○子女の幾日胎内に在りされバ産れて享生ると能
 る手 規則として子女の第六月目の終りより以前に此の世に産れ
 出れば獨立の身とあるとと得難し佛國の法律にては婚姻後百八十日

と經て産れざる子の享生ると能のみならず尙又正統の子女にして
 總て法律上と人文の權利と有つに適へりと認めらる茲に古き醫學者
 の著りせる數例を見るに六月以前に産れて活る所の子女ありと云ふ
 此中最も奇代ある一例のブアンスイーテン氏の記せるものあり曰くフ
 ールチユニナリーズタイの其母親海上にて驚畏るゝとありて六月以前
 に此の世界に産出されり同氏の説く所に依れば彼れ産れざる時に
 その大き拳に等しくして彼れの父親取て籠の内に置けり恐らくは彼
 として起立しめんが爲めありと云へりかくのとく臨月より最も過早
 産出さるとの雖どもその死するや甚ぶ遅く齡七十九歳に達せりと云
 ふ話あり紐育府の大學教師カンニングエス、ベットフラーチド氏某婦人の
 第四番目の分娩の事情と記せり諸この婦人の第六个月に滿つる以前
 にその重さ一磅九オンス(我凡そ三百六匁六分の女兒)産出せしが該

兒子の體の色赤きと紅のとし然るに彼れ呼吸を爲し而して分娩後暫
 時して自由に啼き叫べり借彼れを包む絡ふに檜欖油を以て滑りにせ
 られざる軟りある綿を以てし然る後に一回にその口中を二三滴より
 四五滴づゝ母親の渣を注入て養へり最初の間の之れを飲み込むに甚
 だ困難としが漸次に充分の滋養を得る程飲み込むと成功せり而
 して今日の該女子強壯健全ある婦人となり○母親の危難 妻女
 者流産と甚だ輕々しく取扱ふと習慣とすると往々あり然るに流
 産の満期の分娩より子宮の病を起すと甚だ多く而して自然の分娩
 に比ぶれば陰部を損ひ傷けると多し平常の分娩後に潰傷する部分
 と平愈せしむるが爲めに充分久しく休息を爲すと雖も流産後の如此
 に休息をとると得ず月經の直と始に復り而して速かに孕胎ことお
 るべし又の不幸にして流産の後自然の分娩後の如くに一個月の間

夫婦別々に寝ぬるの風儀を故に豫て子宮の病在る乎或は子宮の病
 に罹らんとする兆しある婦人に於ては特別流産の重大なるものとそ
 ○流産の原因 痔疾の刺劇或は廁にて絞窄との時として子女と早く
 放出その原因とあるとあり新に婚姻したる夫婦の過度なる情交の流
 産の元因とあると通常と海潮に浴びるとの流産と提起するものあり
 と知れり哺乳せるの格別に流産を起し易し或る有名なる醫學者の著
 述に左の事と著はせり或る限りを付けざる數例の中にて乳を嘔しむ
 る時間に妊娠とありする婦人にてその百分の十七の流産せり而して
 他の時に妊娠しする婦人にては流産に出逢ふと唯僅かに百分の十
 りと是の譯に由て乳呑み子と持つところの妻女自分妊娠ありと疑ひ
 思ふとあればその子女と乳離さざんばあるべうらむ借又齒と抜くと
 労働と過ると氣と奮發し過ると蹶き倒ると物に撃觸ると激しき内

感(即ち憤怒不意に非常なる喜び又の驚懼の如し)走駢舞躍乘馬凸凹の道と粗末ある馬車にて乗過ると甚しき疲勞重き物と揚げ抱へると無暗に下劑と服用ふると子宮の病又のその變位瘕瘕總體不健康あるとの總て該の不幸なる過ち流産と起生その原因なるの豫て能く知れざる所にして上に掲げざるものに加付ふるの數因あり○流産の預防拔群ある現術家醫學博士ナルト氏曰く「流産と預防するの道の閑靜に身と保つにあり毎月他の時からば經水の出る期に當る數日の中の特に然かり而して此の數日中の長き歩行長き集會尙又夫婦の交りと扣止るにあり」と○最初の妊娠に流産爲ると避けるの特更願はしきとと如何なれば初妊娠に流産の癖付くときその後之と絶ち防ぐと難ければなり夫故に初て婚姻と爲しざる婦人の不時産と起るべき諸の原因と充分に注意して避けざんばあらざ若し夫れ預防の盡く爲

そとも萬に一つもこの時に流産するとあらば其再發らんと防ぐが爲めに次の妊娠中に非常も非常なる注意と爲さざんばあるべからざる紐育の大學教師ベッドフールド氏云へるとあり「如此なる場合に於て至極結構ある手術の妊娠と爲そや速や第五个月の後に至る迄の男女の交際と絶つに在り如何なれば妊娠も此の期と過ぐれば流産の都合と大いに減せるとと發見せばあり」と○若夫れ流産の症狀(苦痛並びに出血の二語)現れるとさの直と醫者に人と走らせ而して此の際妻女の横に寐て醫者の來着と待つべし醫者するもの此期に追ふとも差迫りざる危難と轉け能ふとあり假令之れと止むると能ざるも醫者の助けの満期の産に於けるが如く緊要あり而して此の時の平常の産より尙一層緊要あると屢之れあり

第四十七章 母親の痕跡

母親の心に思ふとの胎内に在る子女に感染ると云ふとの世俗の信用
 する所あり夫れ稚兒の妊娠中その母親の精神に著しき感動と爲し
 る物體に符合る種々の成跡及び不具と受けて産れ出るとありと執言
 れり此事なるや大いに實際上有益の論題あるが故に余此事に充分
 る注意と與へんと如何とあれバ此事たるや斯く注意すべき價直
 れバかり○余既に遺傳の法律の働きと論じしと雖もその章に於て
 の母親の感勢の話しと全く盡さざる所ありぬ去れば母親なる者從來
 有さざる質とその子女に傳與ふると是れ亦孕胎時に際て母親の心
 に意ふとの子女の身の上の大いある感勢と現そとの余既に説述さる
 と以て今茲に妊娠中兒子の性理の組立と心理の質に彼の感勢の効
 験と思考んと欲せ而して子女がその母親の乳汁と經て母親の感動と
 受くる所の理由と説明そにの後章に哺乳せるとに付て論ぜる時にそ

の都合と得べし去れば即ち母親と子女の親密き接合より何事と猶不
 思儀あるものからん獨り之に比等るもの妻女の身の上は夫婿の不
 思儀ある感勢ありこの感勢に因て妻女の心理と生理の特質に於て兩
 ちがら月日る經るに従ひその夫婿に類似る様にあると屢之れあり加
 之から夫の一種固有の質と彼の妻再嫁して産む所の兒子に傳ふる
 が程に夫婿のその妻女の體と感動するものと是れに由て之と見れ
 ば父母子女の離れて在れ共元來同じ一體のものあり○余今爰に余が
 論評のその人の位地と云ひその人の練熟と云ひ醫學者なる人の誰に
 ても批難云ふとあるべからざる術學の熟練ある經驗者等耳りの決議
 に基づきて説るなりと前以て一言述べ置くべし即ち余が説述る總て
 の例の批難とべからざる確證に因て之れと與へ愚昧妄信の徒が物語
 にあらせして總て充分ある證憑と有り而して余が爰に記載と所の他

の所に等しく術學の嚴正しき發語のみと記せ然れば即ち是れ等の事
 件と能く知得るとの大いに緊要あると實用さるとの惻發ある各の男
 女にハ明瞭あらん○精心に感じ思ふとの體の上はその効驗と現その
 能く人の知る所にして即ち永續き間強く心に感ぜるとの爲に病氣と
 引き起し或の之れと平愈せるとあり夫れ心臓の病の該の機關のたと
 粘着して思考よりして生ぜるとあり或る無益あるものと施用と
 其と功能ありと強く信ぜる力に因て消失り古代の瘰癧即ち帝王の祟
 りと思ふる人の帝王の身に觸るとと以て平癒せり是れ即ち帝王の故
 にあらせして患者の精心が自らこの平癒と成功せり美人の聞ゆるマ
 ーリーアンハット女の頭髮の心に深く感動せしとあると以て暫時の
 間に白髪とあれりマダム、コンダマイン女の彼の漠然として寂寥さエ
 マツ川と唯一人船にて下る間に右に等しき變化に遇へりその他數

多の例と掲げ得ると雖も既に與へざる例にて不斷強く心に感ぜると
 の其體に不思議ある變化と生ぜる勢力と行ふものと云へるとと示そ
 に充分あるべし此等の事實ハ吾人として即ち母親の精心と經て等し
 き成果と子宮の一部分ある胎兒の成長に現せものと云へる思考と起
 さしむるに至るべし○子女の形造と色澤に働きと有つ母親の精心の
 感勢 妊娠していまざ早き時限にてハ母親の不斷久しく精心に思ふ
 とこの形の形情に因てその子女の不具あると或のその他不規則なる成
 長と提起とと云へる説と證據立る數多の事實と記録に載せり○紐育
 の大學教師ウヰルリヤム、エー、ハモンド氏の彼れ自ら目撃みざる所を
 りとして左の著しき例と語れり而して該の例たるや胎兒の性理の組
 立に母親の精心の感勢と受くるとに關てハ殆ど疑と容ると難し或る
 夫人妊娠して第三月目に際て一夜その夫婦面部に劇しき損傷と受て

血の滴る儘我家に歸りると見て大いに驚き懼れ一旦氣絶と爲し
 その後引續て悒鬱病に罹りたりしが該の病中の醫學博士ハモンド氏
 の治術と受けり彼れ該の病より全快とるや速やハモンド氏に語て曰
 く胎内の兒が如何り感化さるあらんと恐れり而して今に至るも當
 時夫の血の滴りさる面態が自分の身に感動て末だ眼界と去と難しと
 るの後期満て女兒と産めり然るに此の兒面部に黒赤き痕跡と有てり
 その位地と云ひ幅や長さ云ひその父親が面部に嘗受けさる傷に寸
 分異らば如之あらば彼れ成長して見れば痲呆なると證せり○紐育
 府の大學教師ダルトン氏左の事實と著はせり同府の内外科醫學校
 に召使ひるる僕の妻女妊娠中に耳の缺けさる男子と夢の中に見たり
 しがこの夢該女の精心に大いなる感動と起せりとその夫に語れりそ
 の後兒と産るに一方の耳の一部分不足して全く彼れが夢に見る

所の不具耳に等し他日大學教師ダルトン氏母親の精心に因りて感化
 しさる胎兒の成長の時に就て講釋せる時に彼の僕右の事情に同氏の
 注意と喚起せり偕該の耳の全く鋭き懐刀にて切斷さるが如しと紐育
 のベルビュー病院醫學校の教師ゼーリユースミス氏左の例に出
 逢へり至極物に感じ易く而して忘迷さる愛國婦人妊娠の初際の月に
 一日市街と通行く時に一人の乞丐追從て拊とその他の指のさき手と
 揚げて天帝の名と稱へて彼れに施物と乞ひ此時婦人不顧に通過せし
 が熟誰の名と稱へて錢と乞ひさる手と思ひ出しその時施しと嫌ひさ
 ると以て今更大いなる罪と犯せりと心に感じて再び以前の乞丐に出
 逢ふたる場所に歸り來れども右の乞丐と見るとさし倍々と思ひその
 後數日該の所に來り見れども絶て彼の乞丐と見せ而して該の婦人の
 話を所に因れば數周日の間之れが爲に彼れが心と苦しめたる程に己

れが想像の罪と思ふとて以て心痛しかがら分娩に近づきて他の分部の執れも満足あれども唯一方の手の諸指と拇のあき女の兒と産めり而して該の不具の手の彼の乞巧の手と同玄側にして全くそれに似るが如くに母親の目に見えり教師スミス氏が見る他の例に甚ぶ之れに等しきものあり之れは母親がその妊娠中に近親者者が怪我として止むとて得せその手と切斷しよると見てその兒子に等しき不具と爲せり同氏の不具ある手と有ちたる該の兒子と兩人とも吟味と遂げ彼等が親共の云ふ所に偽虚なきと少しも疑ひを千八百六十八年の三月に同氏の某幼兒の剩餘の拇と斷ち除けり該の兒の母親の焼餅入の妻女ありしが左の履歴と話せり此の婦人の親族の云ふに及ばざ亦彼れが承知せるづけりその先祖に一人も斯る不具と現れせし人ありし彼れ妊娠の初際の月に店にて蒸餅と商ふとて爲せしが核拇と

有ちよる一人の童子が殆ど毎日一片錢の蒸餅切と買ひに來り右の一片錢と拇と剩餘の指の間に挟みて差し出そと常とせり婦人妊娠の第三月目の後に蒸餅店と退きしあれども該の不具の己れが産みよる兒子に再び生じよると見て異しと爲さざりしが程にこの婦人の精心に感染り〇右に掲げよる諸の例に於ては妊娠の初際の月に感染と生じよるありと雖も又幼兒の不具として分娩以前唯二三月の間に母親の精心の強き感動に基づく明瞭ありと考へしむる數多の例と記録に載り諸此の感動のその時より分娩の時に至るまで母親の心の消えるとかく而して現に見たる所の格別の仕方如くに己れが兒子に感染せるからんと充分に思設けしむると以てあり有名なる物性學者大學教師カーペンター氏の彼れの近親類に此の種類の甚ぶ著しき例の出來りたるを以て之れと躬から詳知せり〇今まで上に掲げ來りたる

諸の例の不易心中に感ぜざる成果の例ありし然るに又時として母親の身に劇しき不意の感の假令速かに之れを忘るゝとの雖も胎内の子女に感ぜんと止むると云ふ説の眞實あり○某夫人の妊娠中にその親類の一人が足に蛭を付けたる不快しき形様を見て慄とせしが兒子と産むに及んで之れを見れば嚮に見ざる部分と同所に血を吸ふために蟠縮する蛭の痕跡ありしと云へる確證ある話あり○パリスの醫學博士 デラクレー氏曰く千八百二十五年の一月にパリスの近傍あるバチグノールと云へる村落に一婦人と診察ふまめに招待せられりしに該の婦人夜前戦慄する程に不具ある六月目の胎兒を産み出せし其唇の顎と齒齦と混同して一塊とあり右の足の其中央より切斷れて其切株松子の形如く尖れり元來此兒の母親の料理人ありしが妊娠とあり大約第三月目の此一朝彼が傭主の家に入來りたる時に兎唇にし

て且切斷する足の僕と見て愕然戰慄せり○千八百六十八年八月の林府に於て開かれたる醫學社の集會にハーヅーパー氏左の説と語れり或る婦人妊娠とあり第三月目の最初の周日の間に兎唇の男兒と見えて然る時胎内にありし兒子のみからせその後重ねて産みたる三人の子女共殘らざ恐るべき兎唇と以て産れり又或る婦人の妊娠して五周日目に負傷てその腸を脱出せる一頭の綿羊を見て大に驚慄し而して數日の間心の動亂と快復せる能は該の婦人滿て兒子を産みしがこの兒他の部分の能く成長せしされ其腹の壁膜と缺けり○母親の精心に思ふとの勢力が胎兒の身の上に關する數多の著しき例の從來集纂られ來れり○第十六百紀中に著名き佛國の外科醫アンブローズ・パーソン氏其の著書の一章と「その原因と形造の想像に基く怪物」の條件に委ねり而して同氏にこの想像の感勢に付て強く信用せる人であると明

説ありの路易第十四世の皇后マリー・テレンシーの扈從ある黒人
 童子が皇后の化粧所より出んどして皇后の御衣の上に蹶き倒るが原
 因にて黒人の子と産みしありと人々一般に之れと信用せり該の皇女
 のフアンテングローの近傍あるモーレットの尼院に於て教育られ爰に始
 てその顔と顯し而して佛國の革命の亂に至るまでの彼れの肖像と此
 の院に掛け置れたり○或る著述家の貪欲の勢と以て子女と不具に爲
 し而して林檎梨子葡萄の如き果實又のその他母親が妊娠中に欲しが
 りざる物の形と子女の身に生ぜるとの例と與へり○左の例の高上る
 る醫學者の説かり或る婦人兒子と産みしが此の兒の舌より珠數の如
 き腫物生じて口を閉ると能はざりしてその色と云ひ形ちと云ひ又太
 さと云ひ全く平常の葡萄に類似り且又胸に全くその形容土耳其雞の
 冠に似る赤き息肉と有てり諸該の母未だこの兒と見せられざる以前

に妊娠中のと問るゝに因て答て云く彼れ妊娠中に某所にて葡萄と
 見て強て之れと欲しがりより而してその後不斷に彼の葡萄のとと心
 に思へりど而して又彼れ他日土耳其雞の雄に襲はれて大いに驚愕され
 るとありと○巴里斯の醫學博士ギマンジチン氏の想像の事と論ぜ
 る彼れの著せる書の中にブルハに於て産れざる或る兒子の事情とシ
 ヨルナール、ダ、ウアルザユーンと云へる雑誌より引證せり諸此の兒子の
 眼中に袖時計の面と明瞭に現はせり而して該の影像の眸子の周圍に
 在りて時の記號の數字判然と視えざり去ればこの兒が未だ胎内に在
 る間にその母親或る時計と見んと強く欲しざるあり○大學教師
 ルトン氏の彼れの著せる人身性理書の中に曰へらく世俗に信用せる
 如く胎兒の種々の不具と不足の或る例に於ての忌憎畏懼憤怒などの
 如きその母親の身に經驗する心經の感動より必だ出來ると云ふと今

日に於ての疑と容る所殆んど之れあしと〇余今幼児の精心にその母の精心の感勢と思考んと今まで余が説論する所の胎児の形造と色澤の上に母親の精心の感勢あるとのみにして未だ少し此の條件に論及ばざりし余が説論の此の條件の世間甚だ普通くして能く知らるれば詳細に之れと例解すると不要用あるべし新克府の醫學博士セギユーン氏の痴呆の事に付て彼れの著書の中に母親の心に感じたる驚畏心痛その他の内感はその子女と痴呆に爲るものと云ふとと信じてるにその理由ある數多の例しと與へり同氏の評解に曰く「感染の時として潛居る胎児に達きて彼れが未だ産れ出でざる以前にその手足と切斷し或ハ大いある新らしき損傷と負はしむると之れあり此の事なるや明らかに言難けれ共争そひ難き事實あり是れに由て痴呆の母親の感動に必らず關係と有てども其由と知り難しと余の心に思惟るを

り〇余が既に與へざるものハ單純に母親の精心の感勢と以て未だ産ざる子女の體と精心に變化と生ととあると云へる説と助くる數多の著しき例と最勝れざる確證あり然るに又母親の身に受けざる性的の記感に由てその子女に感染するとあり〇醫學博士ロセジャー氏は左の事情と報告せり嚮に四人の健全なる子女と産みざる某婦人が妊娠して第七月めに右の脚と犬に噛れり同氏の該の犬の齒にて出來ざる疵傷と見しに三箇の小さき三角形の凹みありてその中二つの僅りに皮と傷けしものにして第三の疵より少しく血の崩みと見れり然るに婦人此凶變に出逢ざる瞬間に少しく驚愕すると雖もその時にも又その後にも胎内の兒が之れが爲めに感染せられざらんとり少しも愛へざりしこれより後十周日と經て健康なる兒子と産みざりじに此の兒子ハ母親の足にある犬の齒痕とその太さと云ひ形容と云

ひ全く等しき三箇の痕跡と有てり而して母の傷痕に等しく一つの巨
いにして他の二つの瑣小あると見て誰人も驚うざるのあかまし儲二
つの小さき痕跡の産れざる時にその色蒼白かまし五周間の後に消
失せ而して大いある痕跡も亦漸次に細くありて産れざる時の如くに
その色濃うらざりし之れと書き記されざる時に該の兒子の産れて四
月に成れり○米國テネシー州のグリーンビルに住める醫學博士エス
ピー、クロールフィールド氏のナシユビル醫學雜誌の輓近の番號に左の憐然
ある例と報告せり或る夫人妊娠の終際に石炭油の破裂に因て火傷と
爲り夫人の此の凶變の後十二時間にして死せり彼れ面部手足及らび
に腹部と劇しく焚爛せり而して凶變後三四時間の胎兒の運動と感せ
り然るに母親の死する少しく前に成熟のあしされども既に死しざる
兒子と産み出せり之れと見るに母親の火傷に對せる火傷の痕跡と有

てり而してその手足腹共盡く火腫とありてその形容の全く新たなる
火傷の如し○夫れ母親の身に出來ざるに理と精心の記感に因て胎内
の兒の體と精心に行れざる確かある感勢に付て右等の例の往々之れ
ありあへて驚くべきにあらざ方今の性理學者の余が論じ來りたる所
の感勢の在るとと許諾すると猶豫するると爲さる加之からる物理も
亦該の感勢の實存とと解き示して曰く若夫れ遽然激しき精心の感動
の嘔吐及らびに氣絶と引起し程に胃腑及び心臓と攪亂し能ふからば
等しく此の感動の子宮及らびに子宮内の記感と易き體と感動爲し能
ふと成り難うらん手且夫れ妊娠の胃腑の消化力と脈擲力に全し
く婦人の身の機關の功用と掌る故に消化力と脈擲力が道德及らびに
精心の記感に因て制御せらるるものあらば妊娠も亦何故に此の記感
に因て制御せらるるとありらんや○右に述ぶる母親の精心の感勢の

如何ある仕方にて働き爲す手 即ち母親の血液と經て働らくものと
 母親の活液(即ち血液)と胎内に在る兒子の活液とを遮隔するもの
 唯一つの至極脆弱な黏液膜あり此の非常に薄き膜と經て母體と兒體
 の血液の絶えざる交感と爲り是れに由り母親の血液に或は暫時或は永
 久く續く所の變化と起せる諸心經の記感のその胎内の子女に通達と
 既に前章に顯しざるが如く母親の自分の固有にあらざる所の精性と
 體體の特質と己れが血液に因てその兒子に傳へ得るがもゑに(例へば
 己れが父親より己れが男兒に遺傳するに男性に屬しざる病を以てそ
 り或は彼れが再嫁の夫に因りて産むたる子女に彼れが最初の夫の性理
 及び精心の形跡と傳ふ)この同じ傳者(即ち血液)と以てその他彼れが精
 心に強き記感と爲せし特助のものとその子女に通じ與へざるの事し
 と云ふの少しも怪異むべきにあらざれば故に解剖學と性理學の該の

不思議に見ゆる感勢と充分に解き明して之れが説と爲せり○今爰に
 説する趣意の今代の術學の認可を所にして母親共親族及らびにその
 朋友に重大ある關係と有てり而してこの事につきて實際上の結局の
 左の如し妊娠中の精心の非常に記感易くして母親の記感の未だ産れ
 ざる胎兒の脆弱な體にその働きと現れが故に婦人一身のみならず亦
 彼れと交り近く人も皆能く注意して此害とさけしめざんばあるべから
 ざり到底子女の體質の妊娠の至時間母親の體體と精心の健康と守るの
 善悪にあり總て妊娠女の左右に有るもの及らびに彼れに召使する者
 のその婦人の心と快樂と靜穩に誘導くべし就中婦人の快うらざる物
 體と見ると避けざんばあらず激しき忌悪しき記感と覺ゆる時
 の精性と靜め轉じて成る丈に速に之れを除き去らざんばあるべから
 ざり何事によらず精心の衝動と起る原因の謹み防がざんばあるべから

「今母親の感勢の論題と離るゝに臨んで子女の身の上は父親の感勢と母親の感勢の尺度に付て明りある差異に讀者の注意を乞ふ」と抑父親の感勢の孕胎する時にして止み母親の感勢の妊娠の全期限内のみあらせ余が追付説述るがとく哺乳する全期限内さへも止むとあし

第四十八章 胎内に於て兒子の教育

美術師 フラクスマンの畫さるる畧圖のその満足あると云ひ優愛じきと云ひ世界第一として貴重せらる彼れ未だ幼稚かりし時より畫と寫くると好めり偕彼の母親の文學と美術と嗜ぬる婦人を望しが常に人に語りて云く彼れフラクスマンと産めるまへ數月の間日々彫像と爲ると諸先生の畫さるる所の人間の形の最も美事ある均合とその心に記憶む爲めに數時と費せりと彼れその兒子と産に至て此兒の才能の我身の教耕の結果あるとと發見せり嗚呼この婦人の思考さる

や如何に優愛しき志操ある乎嗚呼此の事たるや將に人の母とあらんとする婦人に對し文學高調ある志慮潔白ある内感高尚ある情とその心に教耕すべきことと如何に奮勵さしむべき乎是れに由りて此理と遵守する婦人の將來の教育と以て與ふると能きざる所のものと此時に際てその子女に賦與せよ胎兒の腦髓は未だ硬固らせして萬事左右し易きものなるが故に諸の記感と受取ると速りあり而して之れと保續さ終りに此記感の童幼からびに成人の時の特質とあるが故に妊娠女の氣力の乏しきと劇しき情欲精心の刺劇及らびに浮薄あると未だ胎内に在る子女に消失難き成跡と殘止むるものあり偕又之れと反對せる精心の形情の等しく右に反對の成果と生を是れに由て妊娠中の萬づ其心と快樂しむるもの教導びくもの而して高尚にそるものと以て婦人と環絡かしむると至極緊要のたとと如此ある内感の胎兒と教

育しその氣質と形造りその才力と摸造りその精心と智力の線路と造
立るが故に諸教育の中にこれと以て第一の緊要なるものと爲す

第四十九章

或る婦人の妊娠中重ねて孕むと能る乎

某婦人の既に妊娠せる中に重ねて孕胎み既に子宮内に在る子女に第
二の兒子即ちその弟を加へ與ふ乎○犬の類に在ての一頭の母親より
異種の犬と同時に産み出るとい珍らしからば是れに由て之と見れば
此の動物の一の孕胎に密次て他の孕胎と爲し得ること明かり之れに
等しく牝馬の十五分時間の中に最初に馬と造り後にミユール(牡馬と
牝馬の雜子)と造るものと知れり而して人類に於ては婦人同日に黒白
の兩男子に交りたるに因て黒白の雙子と産みたる數例と記録に載り
醫學博士ヘンリー氏の説にブラズイルに於て亞米利加熱帶産の土人
一産に白棕黒の三種の三子と産めり而して該の三子の各自棕黒夫々

の人體に屬しざる容貌と現せりと云へり○總て如此なる例に於ては
重て孕むと甚だ速りに引續て起りたるが故に此の兒子等の同一に成
熟て同産に於て分娩せり然るに之れより一層奇珍にして不思議なる
第二の妊娠即ち二重産の例あり例へば最初の兒が産れ出て後二三四
ヶ月及らびに五ヶ月にして満期胎兒の性質と有る兒子と産みたる例
あり而してこの最初の兒子も同じく満期にして出生するが如しマ
リー、エンバイエードの齡三十歳にして千七百四十八年四月三十日に
満期の活きざる男子と産みしが又同年の九月十九日に活きざる女兒
と産めり而して此の女兒も亦その軀體と云ひ四肢の太さと云ひ能く
成長しざる形情と以て見れば満期るまで胎内に在りたるありと認め
られし即ち該の事實の大學教師イーセンマン氏及らびにストラスポ
ルグ陸軍病院の軍醫監リライシ氏の經驗せし所ありこの二つの分娩

四月半の時間と隔てりと考へらるべし該の最初の兒子の産れて二月半の間享生し第二の兒子の一年を経て死せりこの例に於ての重ね子宮にあらざり如此きものありと恐らくの想像せらるべし如何とされば此の婦人死後に解剖れざるに子宮の單一ありしと證據立つればあり〇此の種類他の例ざる左の如しライチンのベヌワット、フランケイ女の千七百八十年正月二十日に一人の女子と此世に生しその後五ヶ月と六日を経て第二の女子と生せり此の第二の女子も體格満期て且へ能く生長せしありその後二年を経て該の二人の兒子の洗禮の證書と添てライチンの二人の審査官ケイロット及びヂソルジの前に連られり是則ちこの事實ざるや正き醫學に於て有價ものあるが故に將來の證據に爲として記録に止られり〇雙方の分娩の隔間二ヶ月乃至五ヶ月以内にして充分に成長しざる子女の産出に付て現今

に知れざる確證ある數多の例あるがゆゑに如此に月日と挿みて子女と分娩ととあるの少もその間に疑團と容るに由なし唯この條件に就て説き残せる疑問の孕胎の時期に關ての疑問あり去れば如此き例に於ての二人の兒子の雙子にして同じ時に胎するとい雖も後に産出する兒子の成長するとその朋より幾數月後るゝまでの成熟と爲さる程に長り遅れざるある乎否らざれば第二の孕胎の第一の孕胎より數月と經る後に起たるもの乎若し夫れこの後の説と眞とせば即ち前に吐せるマリー、エン、バイ、ド女の例に於ての第二の兒子の第一の兒子が動くことと始めざる以來に孕まれざるに相違なき然るにまた父も異ありその齡も差ざる二人の兒子が同時に子宮内に存在るともあり今日に至ての術學の經驗と識者の重みと以て甚だ稀ある例に在ての第二の孕胎の妊娠中に起ると之あるありと云る事實と確定め

示せりこの胎兒の運動との甚だ活發なり依て此娘の父親のダルスチヨ
 に住める衛生局長醫學博士プリューヌ氏と招待し胎兒と共にこの腫
 物を取り除んと乞へり然れどもこの醫師の之れを精密に検査して
 云らく斯る非常なる例に於ては腫物の内に在る子女が自然に生れ出
 るともあるべしとあり借この胎兒の現在るとその活發なる運動
 の其刻出席しざる諸人一同手感と以て知了り抑醫者なるもの此の
 奇妙奇代の者と殺そとの道に背けり寧親切に保護して育成げんば
 あるべからせ借又彼の新に産れざる女兒の己れが奇珍しき重荷に
 も拘はらせして異常で強壯にして容貌も美しく而して甚だ愉快げに乳
 と哺りし余の該の珍らしき誕生に付て千八百六十九年二月二十日
 のウニサ一ゼータンク新聞紙にて尙委しき話しと聞きこの新聞の
 ルフチヨ一の衛生局長醫學博士プリューヌ氏の評と引證せり此評に

於て同氏の上に與へられざる報告中に含める事實の正確ありと公布
 せり同氏の二月一日に該の兒子を検査する爲めに幣れり而して前
 に記せる如くに腫物の内に胎兒の運運くと見又その手足等と手感に
 て知れり是れ明らか二重生ありしこの例ざるや既に述べる丈けり
 假令稀なるものとの雖も他に同様の例しきさにあらせ是れより新聞
 の語とその儘用ひて著述者の語とを然るに新奇にして從來未だ醫學
 史上に見ざる所のもの該女兒満期るまで母親の胎内に在りて今日
 享生へて居るのみならず腫物内の胎兒も亦産後十一日の中に漸次に
 成長して手感にてその太さの増加ると知らるゝに至れり此時腫物の
 長さの四インチ半(日本)の凡そ三寸七分餘(その幅)三インチ半(日本)の
 凡そ二寸八分(而してその形)の丈け高き梨子の如し頭の下に向て女
 兒の右側にあり體の左の方に横れり○その後此の事情に付て余が

得たる所の尙詳細きと最も最近き報道のこの兒子の特別の請願に因りてメンズイッの博物學社の前に召連れさり而して此所より此兒の母親の醫學の教示と受けんが爲めに的府に趣けりと云ふとまでに及び

第五十章 右の問題に付て道德上の關係

夫れ妻女の榮譽と人間境界の最も親愛しき交際(夫婦の交際)の幸福の余が將に今説き去りたる事實につきて判断と別區と爲るとと適不適に關する余假にその一例と設けんに譬へば或る夫婦の止むと得てして己れの妻女が孕胎するや速彼れと離れて一年間も家に在らざる之れあり此間に際て彼れが妻女數周日と隔て二人の子女と産むとあるべし然る時に於て如此に夫に別れざる間に此の妻女の男女の操と確に守りゑると能きざるや否やの疑問出來るところこれあらん〇余雙

子に付て話せし時に産と産の中間に數日或の數周日の時間と經るとあるの甚ぶ珍らしきとにあらざと評せり而して只今妊娠中に再び孕胎するとの至極稀ありと云ふことと述べり是れに由りて今假りに設けざる例に於いて想像するに重ね産の多く雙子の成果あるべし故に妻女の操に對して不正あるとの何か他の証跡之れあるにあらざれば疑念も起るとあるべからず此論するや夫れ証據ありて疑のるる法律に所謂理由ある疑を受くるの被疑者の所有ありと云へる則言の如く是非あしえりし無罪き一人が冤罪せらるより九十九人の罪人がその罪と遁るゝと勝れりとする耶蘇教の本意の贊成と受く是れに由て術學及らびに人間と神の法律の教示の孰れも道理なき疑に對して將に危ふりける人間の神聖ある權利と貴重なる實益と保護するとの符節と合そが如し加之からず偶起の推理論も亦斯る疑と許さ